

第1期

西予市地域福祉活動計画

中間評価

(令和4年度)



社会福祉法人
西予市社会福祉協議会

第1期西予市地域福祉活動計画 中間評価 目次
(令和4年度)

第1章 中間評価及び見直しの概要	4
<hr/>	
第2章 実施計画	10
基本目標1 ささえあう意識づくり	11
基本目標2 つながり・ささえあう地域づくり	15
基本目標3 福祉サービスの充実と包括的な相談体制づくり	24
基本目標4 安全・安心のまちづくり	26
基本目標5 信頼される社会福祉協議会づくり	30
<hr/>	
第3章 住民座談会	32
1 明浜地区	
(1) 俵津地区	35
(2) 狩江地区	36
(3) 高山・宮野浦地区	38
(4) 田之浜地区	39
2 宇和地区	
(1) 多田地区	41
(2) 中川地区	42
(3) 石城地区	43
(4) 宇和地区	45
(5) 田之筋地区	46
(6) 下宇和地区	47
(7) 明間地区	48
3 野村地区	
(1) 野村地区	49
(2) 湊筋地区	51
(3) 中筋地区	53
(4) 大和田地区	54
(5) 横林地区	55
(6) 惣川地区	57
(7) 大野ヶ原地区	60
4 城川地区	
(1) 遊子川地区	61
(2) 土居地区	62
(3) 高川地区	63
(4) 魚成地区	65

5	三瓶地区	
	(1) 東地区	66
	(2) 二木生地区	67
	(3) 周木区	68
	(4) 蔵小校区	70
	(5) 下泊区	72
6	住民座談会に参加しての中間評価委員の意見・感想	73

資料編

	西予市地域福祉活動計画策定委員会設置要綱	75
	西予市地域福祉活動計画 策定委員会 委員名簿	77
	アドバイザー	78

第1章

中間評価及び見直しの概要

第1章 中間評価及び見直しの概要

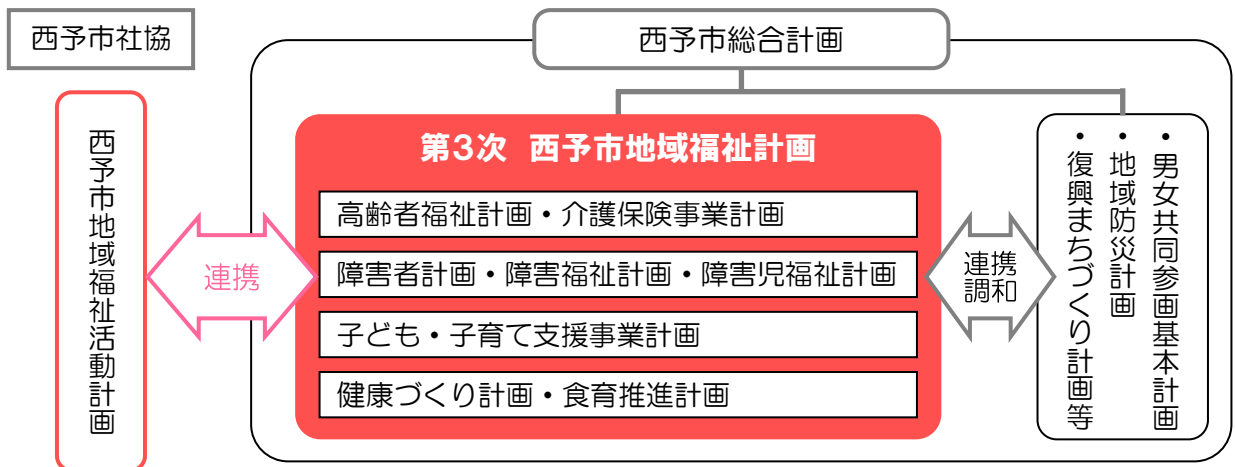
1 第1期西予市地域福祉活動計画について

「第1期西予市地域福祉活動計画」は西予市における地域福祉を推進するため、地域住民のみなさんと一緒になって、地域の福祉課題の解決に向けて取り組む計画です。地域福祉の推進団体として活動する社協が中心となって、アンケート調査や住民座談会などを実施し、住民のみなさんの声や意見を反映して令和2年度に策定を行いました。

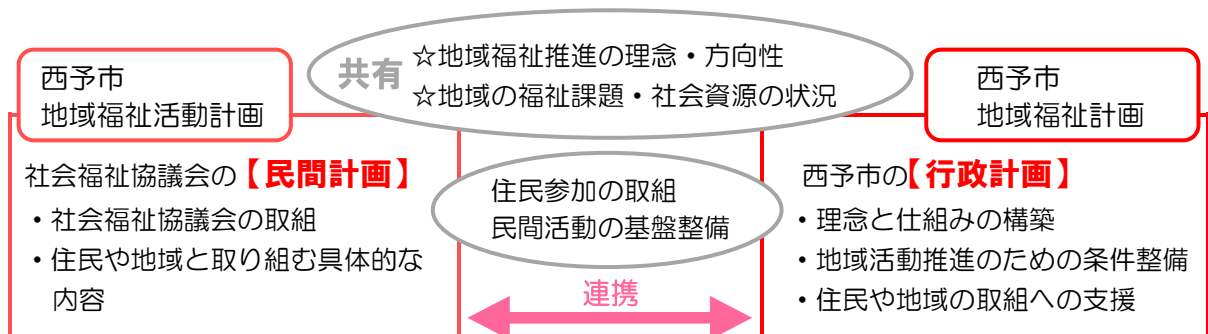
2 地域福祉活動計画の位置付け

本計画は、住民の一人ひとりが地域社会を担う一員として自分の地域について考え、みんなで住みよい地域づくりを行っていくための「具体的な取り組み」を位置づける行動計画です。社会福祉法に基づき西予市が行政計画として策定する「西予市地域福祉計画」と「理念・仕組み」を共有しながら一体的に策定し、行政と民間のそれぞれの立場で役割を分担し、車の両輪のように連携を図っています。

■計画の位置付け図



■本計画と西予市地域福祉計画との関係



3 計画の期間

本計画は、令和2年度を初年度とし、令和6年度を最終年度とする5年間の計画となっています。計画の推進状況や課題の確認を行うとともに、今後の対応や改善点等を検討し実効性向上を図るため、令和4年度において中間評価及び見直しを行いました。

■計画期間

平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
	西予市地域福祉活動計画（本計画）						（仮） 西予市地域福祉活動計画（第2期）				
策定			中間見直し		見直し			中間見直し		見直し	
西予市地域福祉計画（第2次）	西予市地域福祉計画（第3次）						（仮） 西予市地域福祉計画（第4次）				
見直し					見直し						見直し

4 中間評価及び見直しの方法

1 西予市地域福祉活動計画中間評価委員会

住民参加により計画の中間評価を行う場として、住民の代表者、民生児童委員の代表者、高齢者・障がい者の代表者、ボランティア団体の代表者、社会福祉施設関係者、行政関係者など16名の委員からなる「西予市地域福祉活動計画中間評価委員会」を設置し、審議・検討を行いました。各委員にはそれぞれの立場や視点に基づきご意見をいただくとともに、実施計画を1～5の点数で評価していただき、全委員の平均点を中間評価委員会の点数としました。

■中間評価委員会の開催状況

第1回中間評価委員会（令和5年1月27日）

第2回中間評価委員会（令和5年2月24日）



2 住民座談会

令和元年に開催した住民座談会から3年が経過し、前回の座談会で話し合われた地域の課題やその解決に向けた取り組みの状況などについて再び話し合う事を通して、地域の将来像について改めて考え合っていただく場として、旧町ごと（市内7箇所）に令和4年9月から11月にかけて住民座談会を開催しました。住民座談会では前回に引き続き、「まちづくり組織」ごとにテーブルに分かれて、KJ法のグループワークにより話し合いを行いました。

なお、今回も野村町の惣川地区及び大野ヶ原地区については地理的な関係からそれぞれの公民館及び集会所にお伺いし、住民座談会を開催しました。



3 有識者によるサポート

前回に引き続き岡山県の新見公立大学教授（元聖カタリナ大学教授）に中間評価の趣旨・策定の手順・住民座談会の進め方等について、専門的なアドバイスを受けました。

また、住民座談会ではリモートにより講演及びグループワークの司会を務めていただくとともに、中間評価委員会にもリモートによりアドバイザーとして出席をいただきました。



5 基本理念

本計画の基本理念は、市の地域福祉計画と基本理念を共有し、計画を連携して策定し、西予市における地域福祉のまちづくりを総合的かつ計画的に推進するという考えから、地域福祉計画と同一の基本理念を掲げています。

基本理念

**みんながささえあい
くらしで安心が体感できるまちづくり**

本計画は、住民主体の理念に基づき、住民一人ひとりが抱えている様々な福祉課題を地域全体の課題として、他人事ではなく「我が事・丸ごと」として捉え、みんなで考え、話し合い、活動を計画し、自助・共助・公助の連携を図り解決していこうとするものです。

住民が地域とのつながりを持ち、思いやりを持って、共に生き、共に支え合う輪を広げることによって、西予市における「地域共生社会」の実現を目指しています。

6 基本目標

市と連携・協働しながら地域福祉を推進するため、地域福祉計画の4つの基本目標を共有するとともに、社会福祉協議会の基盤強化に関する1つを加え、次の5つを本計画の基本目標としています。

基本目標 1 ささえあう意識づくり

基本目標 2 つながり・ささえあう地域づくり

基本目標 3 福祉サービスの充実と包括的な相談体制づくり

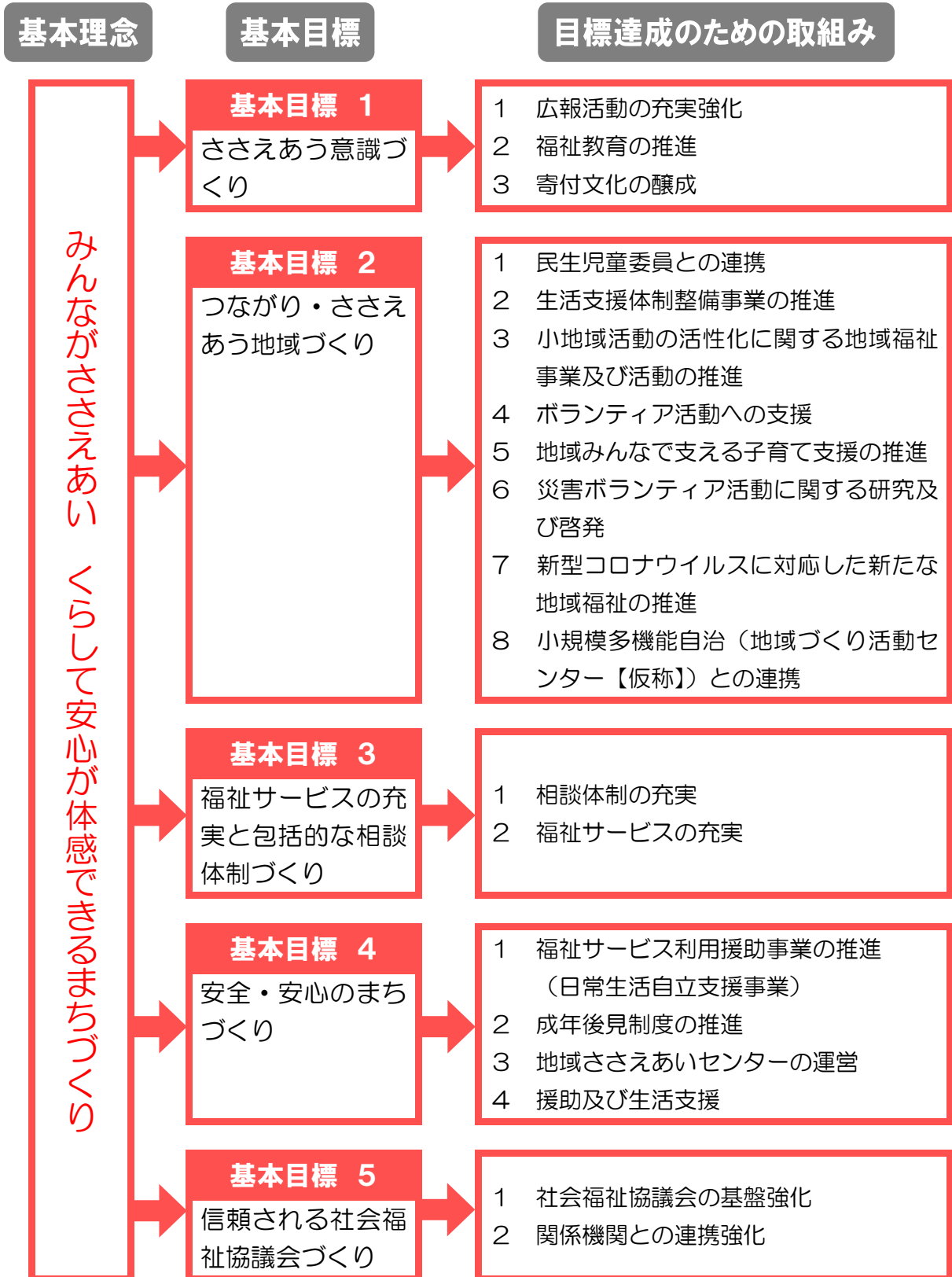
基本目標 4 安全・安心のまちづくり

基本目標 5 信頼される社会福祉協議会づくり

7

計画の体系

基本目標を達成するための取組み等、計画全体の体系図は次のとおりとなります。



※ 令和4年3月31日をもって西予市地域ささえあいセンターは閉所となっています。

第2章

実施計画

基本目標 1 ささえあう意識づくり

実施計画 1 広報活動の充実強化

実施項目	実施状況 (内部評価)
1 西予市社協広報「おあしす」の発行	5
2 ホームページ、フェイスブックを活用した情報の発信	3
3 地域における広報・啓発活動	2
4 (旧町ごとの) 支所だより及び本所だよりの発行	5
5 西予市社会福祉大会の開催	5
6 「地域福祉フォーラム」の開催	1

5 できている 4 概ねできている 3 標準的 2 やや不十分 1 できていない

実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 西予市社協広報「おあしす」を年5回発行している他、旧町ごとに支所だより・本所だよりを年12回～3回程度発行し、地域福祉に関する情報発信と社協活動を理解・支援して下さる方が増えるよう取り組んでいる。 令和4年度に第9回西予市社会福祉大会の開催を行い、福祉課題・福祉活動への関心を高めるよう努めた。(約400名参加) 	
改善点	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ、フェイスブックによる情報発信を行っているが、投稿回数や閲覧数が増えるよう取り組む。 ふれあい・いきいきサロン、地域づくり組織の会、民協定例会など職員が地域に出向いた際、地域福祉の情報発信や社協事業のPRに取り組む。 「地域福祉フォーラム」について新型コロナウイルスの感染拡大などにより実施できていないが、今後は開催に向けて取り組んでいきたい。 	
計画の見直し ※ アンダーラインが変更部分	見直し前	見直し後
	2 ホームページ、フェイスブックを活用した情報の発信	2 ホームページ、SNSを活用した情報の発信
見直しの理由	フェイスブックとインスタグラムの連携など複数のSNSの活用により、情報を受け取るユーザーを広げるよう図る。	

中間評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> 多様な手段で住民に対する情報提供ができていると思います。社会福祉大会もとてもいいものだったと感じました。なお一層の努力と、情報がどれくらい届いているかを把握することもしてほしいと願います。 広報誌等、定期的に発行され、よく取り組まれている。 ホームページ内容の充実、活動の様子等の紹介もアップしてはどうか。 広報「おあしす」「支所だより」は、読者の関心が一層高まるような掲載内容へ工夫を。
-----------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民が広く参加できるフォーラムを期待します。 ・ホームページ、SNS を活用できる人が限られている。 ・広報等は行われているが、地域住民への理解浸透までには至っていない。地域住民の意識改革が必要。 ・改善点で書かれている意見と同じです。 ・発信の内容について、対象は誰なのか、誰に見てもらいたい・知ってもらいたい内容なのかを考えた上で手段は検討する必要があると思う。 ・発信する情報について、トピックス・時事問題だけでなく、支え合うノウハウなど、オーソドックスなこともあった方が良いのではないのかと思いました。 ・発信の媒体として、CATV 等の活用はいかがでしょうか。 ・地域福祉フォーラムは、福祉大会と融合できないでしょうか。
--	---

中間評価委員 の評価	3.6
---------------	------------

5 できている 4 概ねできている 3 標準的 2 やや不十分 1 できていない

実施計画 2 福祉教育の推進

実施項目	実施状況 (内部評価)
1 福祉教育の推進	4
2 高齢者に関する介護知識・技術等普及・促進並びに啓発	3
3 外国人や性的マイノリティなど多様な生き方・文化の尊重	1
4 合理的配慮の推進	5

5 できている 4 概ねできている 3 標準的 2 やや不十分 1 できていない

実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の各小中学校で高齢者疑似体験教室・車椅子教室・点字教室などの福祉教育に関するプログラムを実施し、次世代を担う子どもたちに「他者への思いやりの心」の養成に努めた。 【令和3年度実績】高齢者疑似体験 4回、車いす介助体験 4回、手話教室 2回、点字教室 2回、コミュニケーション講座 1回、認知症サポーター養成講座 1回、ボランティア入門講座 1回、ミュージックケア 1回、お手玉遊び 1回、介護ベットの体験 1回 ・介護予防サポーターなどへ認知症や介護予防に関するステップアップ研修会を実施し、地域の支え合い活動の担い手として普及啓発を図った。 ・合理的配慮の推進として、ステッカープロジェクト実行委員会との協働により、西予市内で「優しさの見える化」の実現を目指した「心のバリアフリー運動」に取り組んだ。(西予市内 109 箇所)
改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人や性的マイノリティなど多様な生き方・文化の尊重について取り組めていないが、偏見や差別の解消に向けた取り組みの研究を行っている

	きたい。
計画の見直し	・特になし

中間評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・他の様々な機関や団体と協力して、次代を担う子どもたちへの働きかけを強化してください。幼稚園や保育所でも取り組めることがあるのではないかと思います。LGBTQ についての学びの場なども作ってもらいたいものです。 ・小中学校での体験教室の取り組みは、大変良いことだと思う。 ・地域の現状や実態に応じた、福祉教育を推進することが大切だと思う。 ・今からの取組みに期待したい。(内容の把握ができてない) ・継続的な福祉教育の実践が必要。学校教育者との定期的な連携会議の設置等。 ・西予市全体、外国人の方の受け入れが進んでいると思う。 ・福祉教育の推進について、より一層取り組んでいただく事を願います。(市内各法人との協力体制での取り組みなど) ・市内の NPO 法人等と協働できる機会はないでしょうか。例えば、ねぎ等の農福連携(就労・外国人との連携)、ひきこもり支援の NPO など。 ・外国人に対する事業は評価 1 となっているが、今後は頑張ってもらいたい。
-----------	---

中間評価委員の評価	3.2
-----------	------------

5 できている 4 概ねできている 3 標準的 2 やや不十分 1 できていない

実施計画 3 寄付文化の醸成

実施項目	実施状況 (内部評価)
1 西予市まごころ銀行の運営と寄付金活用事業の促進	4
2 愛媛県共同募金会・西予市共同募金会との連携と共同募金及び歳末たすけあい運動並びに日本赤十字社活動資金募集への協力	4
3 クラウドファンディングを活用した寄付の募集に関する研究	1

5 できている 4 概ねできている 3 標準的 2 やや不十分 1 できていない

実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・まごころ銀行への寄付を促進するとともに、まごころ銀行の財源を活用した給食サービスやふれあい・いきいきサロン等の地域福祉事業に取り組み、寄付文化の醸成を図った。 ・地域福祉活動への参加方法の一つとして、共同募金・歳末たすけあい・日赤会員などの募金事業の推進に取り組んでいる。
改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・クラウドファンディングを活用した寄付の募集には取り組めていないが、引き続き研究を行っていきいたい。

計画の見直し	・特になし
--------	-------

中間評価委員 の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・クラウドファンディングを活用してまで寄付を募るのはいけないのではないかと思う。 ・既存というかずっと行ってきている取組については、十分ではないかと思います。寄付文化の根づいていない日本では、いろいろハードルも多いので、行政への働きかけ等も必要なのかとも思います。 ・共同募金への職員の推進は評価します。 ・寄付金活用の地域住民への透明性（情報提供） ・まごころ銀行の寄付については、地域格差があり大変だと思います。 ・地域おこし協力隊やまち作り組織等と協働できる場はないでしょうか。 ・クラウドファンディングは切り札であり、何度も出来ないため、なるべくとっておいたほうが良い。 ・日本でも子どもの頃からお金や寄付について学ぶ機会があれば寄付文化の発展に繋がっていくのではないかと思う。
---------------	--

中間評価委員 の評価	3.6
---------------	------------

5 できている 4 概ねできている 3 標準的 2 やや不十分 1 できていない

基本目標 2 つながり・ささえあう地域づくり

実施計画 1 民生児童委員との連携

実施項目	実施状況 (内部評価)
1 民生児童委員との協働及び活動への支援	5
2 安心キットの普及・啓発	5

5 できている 4 概ねできている 3 標準的 2 やや不十分 1 できていない

実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 地域福祉の推進役である民生児童委員との協働で心配ごと相談、見守り活動を兼ねた給食サービス・オムツ配布等の事業の実施を通して、地域住民の福祉ニーズの把握や情報提供に努めた。【令和3年度実績】給食サービス 年間延べ配食数 16,312食（三瓶のヤクルト配布を含む） 安心キットの推進により緊急時の連絡先等の情報を整備し、安心して暮らせる地域づくりに繋げている。（令和3年度末 1,508世帯、1,854人）
改善点	<ul style="list-style-type: none"> 民生児童委員とより一層連携を密にして、地域福祉活動の充実を図る。
計画の見直し	<ul style="list-style-type: none"> 特になし

中間評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> 民生児童委員のなり手がなかなか見つからない現状でした。（私の地区）民生児童委員が主たる担い手ではあるでしょうが、4月からの地域活動センターの活動の中にもどんどん入って行って、みんなが支えつなごうのだという意識を育ていくようなこととしてはどうでしょうか。 見守り活動を兼ねた給食サービス等、活動が見える。 すばらしい取り組みだと感じている。サービスを楽しみに待っている声も聞かれます。 これからも民生児童委員と連携して活動してほしい。 給食サービス・心配ごと相談など実施はできているが、内容を民生委員が理解しているかは疑問である。（令和4年12月に改選があったため）安心キットについての理解も民生委員によって差がある。民生委員に向けて、安心キットなどの情報を説明してほしいと思う。 情報共有の充実。 給食サービスが外注へ。（話をする時間をとるため） 民生委員さんの活動から話を聞いている。同じ人が何期もするのはどうかと思う。 安心キットの普及率の地域差はないのか、定期的な整理はできているか。 個別支援の協働も必要ではないかと思ひます。
-----------	--

	<ul style="list-style-type: none"> 給食サービスについて、近隣の人から「給食サービスの日を楽しみにしている」と好評である。給食の楽しみだけではなく、訪問してもらう安心感もあるのではないかと思う。
--	---

中間評価委員の評価	4.3
-----------	------------

5 できている 4 概ねできている 3 標準的 2 やや不十分 1 できていない

実施計画 2 生活支援体制整備事業の推進

実施項目	実施状況 (内部評価)
1 生活支援コーディネーターの配置	5
2 「支え合い推進会議」(協議体)の設置	3
3 地域支援の担い手の養成や住民主体による活動の支援	3
4 地域の集いの場づくりの推進	4
5 地域資源(地域の「宝物」)の見える化と育成	4

5 できている 4 概ねできている 3 標準的 2 やや不十分 1 できていない

実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 第1層、第2層の生活支援コーディネーターを設置し(兼務)、生活支援体制整備事業の推進に取り組んでいる。 協議体(支え合い推進会議)の第1層を設置し、関係機関とのネットワークづくり及び情報共有を図っている。 地域の支え合い活動の担い手として、介護予防サポーターのスキルアップに協力している他、ポイント制ボランティアの推進に取り組んでいる。 地域の集いの場として「ふれあい・いきいきサロン」の推進など、住民主体の活動への支援を図った。また、「地域のお宝ガイドブック」の作成などにより、地域の支え合い活動の見える化にも取り組んだ。
改善点	<ul style="list-style-type: none"> 旧町ごとに第2層協議体の設置を行う。(令和4年度中に設置の予定)
計画の見直し	<ul style="list-style-type: none"> 特になし

中間評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> コーディネーターの方の努力がなかなか一般市民には見えていない現状だと思います。小さい地区ごとの現状把握などに努めて、様々な方との連携強化が必要だと感じています。 組織体制はおおむね整えられた。内容・活動のより充実に努めていただきたい。 事業が緒についたせい、少しずつではあるが具体的成果が挙がりつつある。さらに地域課題解決に向けた取り組みを期待したい。 地域づくり会議や区長会等の地域組織との連携強化による事業の推進が大切である。 地域差があると思うので、今後の活動に期待している。
-----------	---

中間評価委員 の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険サービスの受け皿作りとしての機能強化をお願いしたいです。（デイサービス事業所の消失に関する課題など） ・サロンなど集いの場の数に地域差があり、集いの場が少ない地域について、住民からの声がないからというだけではなく、コーディネーターはなぜという視点を持って関わる必要があると思う。 ・高齢者だけでなく子どもや母親なども交えた地域共生社会の実現を念頭に置き、いろいろな視点をもって活躍してもらいたい。 ・公的なサービスだけでは、補えきれない地域のニーズがあると思う。みんなで知恵を出し、後方から支援をしていって欲しいと期待している。 ・ふれあい・いきいきサロンについて、コロナで休止になっているところや高齢化による後継者不足が原因で衰退化しているところもあると思う。そのようなサロンが継続していけるように取り組んでほしい。
中間評価委員 の評価	3.4

5 できている 4 概ねできている 3 標準的 2 やや不十分 1 できていない

実施計画 3 小地域活動の活性化に関する地域福祉事業及び活動の推進

実施項目	実施状況 (内部評価)
1 ふれあい・いきいきサロン事業の推進・充実	4
2 西予市生き生きシニアポイント事業の実施	4
3 地区社会福祉協議会の活動推進	4
4 地域食堂の推進	3
5 移送支援に関する活動の研究	1
6 障がいのある人を対象としたサロン事業の推進	3

5 できている 4 概ねできている 3 標準的 2 やや不十分 1 できていない

実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の「仲間づくり」「居場所づくり」「生きがいづくり」の場として、ふれあい・いきいきサロン事業の推進に取り組み、助成金の交付など活動の支援を行っている。（令和3年度末 118箇所） ・地域の支え合い活動の担い手として、ポイント制ボランティアの推進に取り組んでいる。（令和3年度末 登録者 ポイント制ボランティア 86人、プレミアムポイント 17人） ・地域食堂についての研修会を開催した他、市内で活動を行うグループとの連携を図っている。 ・移送支援についてのニーズが住民座談会で上がっており、住民同士が支え合い・解決する仕組みづくりについて、引き続いて研究を行ってきたい。 ・精神障がい者を対象としたサロンについて、新型コロナウイルスの感染
------	---

	拡大により中止となることも多いが、対象者が安心できる場所となるよう活動の支援を行っている。	
改善点	<ul style="list-style-type: none"> 地域づくり活動センターの設置に伴い、地区社会福祉協議会が解散となる地区もあるが、引き続き地域福祉活動の推進のため、地域の組織と連携を図る。 	
計画の見直し	見直し前	見直し後
	1～2 省略 3 地区社会福祉協議会の活動推進 4～6 省略	1～2 省略 3 地区社会福祉協議会及び地域福祉活動の推進 4～6 省略
※ アンダーラインが変更部分	見直しの理由	<ul style="list-style-type: none"> 地域づくり活動センターの設置に伴う、地区社会福祉協議会の解散による見直し

中間評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> 公民館が地域づくり活動センターになる今こそチャンスです。各地区にどんどん出向いて行って、現状を知り、福祉の立場からの発信をどんどんしていくことが大切だと考えます。 移送支援の整備について、継続研究に努めてほしい。 この分野は地域活動の肝であり、さらなる強化充実を期待したい。 活動推進リーダーの不足。 サロンの支援、目的をもった参加は必要。 移送支援について、西予市でもあらゆる機関を巻き込んで、少しずつ前向きに進められるとよいと思う。 	
中間評価委員の評価	3.3	

5 できている 4 概ねできている 3 標準的 2 やや不十分 1 できていない

実施計画 4 ボランティア活動への支援

実施項目	実施状況 (内部評価)
1 ボランティア活動に対する情報の収集・提供及び啓発	3
2 各種ボランティア講座・研修会の開催	3
3 ボランティア活動保険の加入促進	4

5 できている 4 概ねできている 3 標準的 2 やや不十分 1 できていない

実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアセンターの基盤強化を図ると共に、各団体の連絡調整を図り、地域活動に取り組むボランティアの養成講座やボランティアの啓発活動に努め、ボランティア活動に取り組みやすい環境を整備している。 ボランティア活動保険に関する情報の提供や希望者の加入手続きを行うなど、同保険の加入促進を図っている。(令和3年度 1,826人加入)
------	--

改善点	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの感染対策により活動を自粛しているグループもあり、収束後の活動再開に向けた支援を行っていききたい。
計画の見直し	<ul style="list-style-type: none"> 特になし

中間評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> これについても地域活動センターでの取組みにどんどん出ていっていきのがいいのではないのでしょうか。身近なところにボランティアが（住民が身近に感じられる）という心が育てばと願います。 コロナ感染が落ち着かず、活動ができにくい状態だと思う。この状態が普通（自然消滅）とならぬよう、今後、活性化を図っていく必要がある。 ボランティア活動の啓発に努めてもらいたい。そして、地域住民が参加しやすく、出来るように取り組んでほしい。 ボランティアを実施している人はよくできているが、住民への周知はどうか。 今後も継続した活動への支援が必要。 ボランティアセンターの窓口の周知や活動しやすい仕組みがあったらいいなと思います。 ボランティア連絡協議会の役員は明浜地区・宇和地区・三瓶地区のみで、野村地区・城川地区の方はいない。せっかくの組織なのでバランスをとり、市内全体から役員に加わっていただきたいと思う。
-----------	--

中間評価委員の評価	3.0
-----------	------------

5 できている 4 概ねできている 3 標準的 2 やや不十分 1 できていない

実施計画 5 地域みんなで支える子育て支援の推進

実施項目	実施状況 (内部評価)
1 子育てサロンの推進	4
2 子育て支援講座（「わたしへのごほうび講座」等）の開催	5
3 「こども食堂」及び「地域食堂」の推進	3
4 ファミリーサポートの研究	1
5 学習支援に関する研究	1

5 できている 4 概ねできている 3 標準的 2 やや不十分 1 できていない

実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 地域ぐるみで子どもを育てられる環境づくりとして子育てサロンの推進に取り組み、助成金の交付など活動の支援を図っている。 子育て中の保護者の情報交換や交流の場として、児童館との協働により、子育て支援に関する講座の開催などに取り組んでいる。 地域食堂についての研修会を開催した他、市内で「こども食堂」及び「地域食堂」を開催する団体との連携を図っている。
------	---

改善点	<ul style="list-style-type: none"> 西予市ファミリー・サポート・センターとの連携を図るとともに、学習支援の事業について研究を行う。 全国的に問題となっている「ヤングケアラー」について、現状の把握と課題解決に向けた取り組みについての研究を行う。 	
計画の見直し ※ アンダーラインが変更部分	見直し前	見直し後
	1～5 省略	1～5 省略 6 ヤングケアラーの現状把握と課題解決に向けた取り組みについての研究
	見直しの理由	・「ヤングケアラー」の問題について対応を検討するため

中間評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> 市内に経済的支援を必要とする（食など）子どもがどのくらいいるのか、ヤングケアラーが何人いるのか、まずは実態把握に努めてほしいものです。子どもは社会のもの。地域みんなで支え育てていくものだという意識を広めたいものです。 ヤングケアラーの問題については、子どもの将来にも関わる問題であり、ぜひ、現状把握等、課題解決に努めてほしい。 今や子育て支援は、国を挙げての大施策。垣根を超えた連携のもと、地域ぐるみでの活動強化を期待したい。 地域におけるヤングケアラーの情報収集を実施する。 はっきり理解できていないように思える。今からの事業と思う。 学校教育者との連携も必要ではないか。 宇和や野村の児童館や図書館は、とても（子守り）助かっています。その反面、「こども食堂」「地域食堂」は1回したぐらいで実績に値しない。 ヤングケアラーの把握等のために、「実施計画2 福祉教育の推進」が連動すると思います。また、介護の場面でも、介護サービス事業所や居宅介護支援事業等と連携・周知が必要と認識します。 	
-----------	--	--

中間評価委員の評価	2.8
-----------	-----

5 できている 4 概ねできている 3 標準的 2 やや不十分 1 できていない

実施計画 6 災害ボランティア活動に関する研究及び啓発

実施項目	実施状況 (内部評価)
1 災害ボランティアセンター中核スタッフ養成プログラムへの参加	5
2 災害時対応マニュアルの再検討	3
3 災害ボランティアセンター設置訓練の研究	3
4 災害ボランティアに対する意識の啓発	4
5 災害ボランティア養成講座の実施	5

6 災害時連携を念頭に置いたネットワークの推進・構築	3
7 要配慮者の支援に関する研究	2
8 感染症対策に配慮した災害ボランティアセンターの運営に関する研究	3

5 できている 4 概ねできている 3 標準的 2 やや不十分 1 できていない

実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 被災者に寄り添った支援が円滑に行えるよう災害ボランティアセンターの設置体制の充実を図るため、県社協が行う災害ボランティアセンター中核スタッフ養成プログラムに参加するなど人材の育成に努めている。 災害ボランティア養成講座を開催し、防災意識の向上と災害ボランティアとしての活動に必要な知識の普及を図った。 大規模災害発災時の様々な状況に対応するため、災害ボランティアセンター運営に必要な備蓄品の整備を行った。
改善点	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関の連携を目指した災害ボランティアのネットワーク拡充に、引き続き努めていきたい。 大規模災害を念頭に住民主体の被災者支援活動を円滑に進めるため、災害ボランティアの養成に引き続き取り組んでいきたい。
計画の見直し	<ul style="list-style-type: none"> 特になし

中間評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> 西日本豪雨を契機に、住民の意識も高まり、様々な取組も充実しているように思います。小さな地区の防災組織での学びや啓発の更なる充実が大切になってくるのではないのでしょうか。 2018 西日本豪雨災害を経験、災害ボランティアセンターを立ち上げた実績を踏まえ、本計画は実施できている。 地球温暖化や南海トラフ地震等の不安が高まっている。住民が安心して住める体制の構築を願う。 関心を持つ人が増えている。 地域においては、防災意識が徐々に高まって来ている。 地域組織との連携強化。 西予市内でも地区によって、関心度が異なると思う。 地域の自主防災組織との連携が必要であると思います。
-----------	---

中間評価委員の評価	3.4
-----------	------------

5 できている 4 概ねできている 3 標準的 2 やや不十分 1 できていない

実施計画 7 新型コロナウイルスに対応した新たな地域福祉の推進

実施項目	実施状況 (内部評価)
1 新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮した、ふれあい・いきいきサロン等の地域の「集いの場」の推進	3
2 電話やスマホなどを活用した、安否確認・交流活動についての情報提供	3

3 手作りマスク作り等、コロナ禍での新しいボランティア活動の推進	3
4 オンラインによる研修会や講座の開催	5

5 できている 4 概ねできている 3 標準的 2 やや不十分 1 できていない

実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい・いきいきサロンにおいて関係資料を配布するなど、感染拡大防止に配慮した「集いの場」の普及を図り、高齢者が閉じこもりがちな生活にならないよう努めた。また、LINEなどのSNSを活用した交流に関する研修会を開催するなど、コロナ禍でも繋がりを絶やさないための取り組みを行った。 ・コロナ禍での新しいボランティア活動として、手作りマスク作り等に多くの方の協力を得ることが出来た。(13件 646枚) 	
改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・治療薬の普及や類型の見直しなどにより新型コロナウイルスは収束に向かうと思われるが、変化する社会情勢に併せた「With コロナ」の地域福祉活動を引き続き推進していきたい。 	
計画の見直し	見直し前	見直し後
	1～2 省略 3 手作りマスク作り等、コロナ禍での新しいボランティア活動の推進 4 オンラインによる研修会や講座の開催	1～2 省略 削除 3 オンラインによる研修会や講座の開催
※ アンダーラインが変更部分	見直しの理由	マスク作りやシトラスリボン等のコロナ禍での新しいボランティア活動については、一定の役割を終えていくと考えられるため。

中間評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対策については、国の対策を含めいろいろ思うところがあります。やれる努力はしっかりされたと思っています。 ・新型コロナに対する正しい知識を持つべきである。 ・独居などの高齢者へのコロナに対応した、福祉活動の充実が早急に望まれる。 ・コロナをきっかけに、無くなっていく地域の活動もあるのではないかと危機感を覚えている。 	
-----------	--	--

中間評価委員の評価	3.1
-----------	-----

5 できている 4 概ねできている 3 標準的 2 やや不十分 1 できていない

実施計画 8 小規模多機能自治（地域づくり活動センター【仮称】）との連携

実施項目	実施状況 (内部評価)
1 西予市地域づくり活動センター市民検討委員会への参画	3

2 せいよ地域づくり円卓会議への参加	3
3 地域づくり組織及び公民館との連携・情報共有	3

5 できている 4 概ねできている 3 標準的 2 やや不十分 1 できていない

実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 西予市地域づくり活動センター検討委員会に社協として参加し、センター設置と今後の地域での取り組みについて意見交換を行った。 せいよ地域づくり円卓会議等の会議に参加するなど、地域づくり組織及び公民館との連携・情報共有を図った。 	
改善点	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度より公民館が廃止となり地域づくり活動センターが設置されることから、地域任用職員などと引き続いて連携・情報共有を図る。 	
計画の見直し	見直し前	見直し後
	<p>【実施計画 8】小規模多機能自治(地域づくり活動センター【仮称】)との連携</p> <p>1 西予市地域づくり活動センター市民検討委員会への参画</p> <p>2 せいよ地域づくり円卓会議への参加</p> <p>3 地域づくり組織及び公民館との連携・情報共有</p>	<p>【実施計画 7】地域づくり活動センターとの連携</p> <p>1 地域づくり活動センターとの連携・情報共有</p> <p>2 地域づくり活動センター及び地域づくり組織との協働による地域福祉事業の推進</p>
	※ アンダーラインが変更部分	見直し の理由

中間評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> 現在、公民館長をしており4月からのセンター化に向けていろいろと探っているところです。各地区の現状を把握して、それぞれの地区に合った連携協力の方法などを取り上げてほしいなと思います。まずは公民館に行って、各地区の現状をつかんでほしいなと思っています。 令和5年度からまずは連携を深め、できることから取組んでほしい。 今後、行政側の「地域づくり活動センター」との役割分担と協働による福祉活動を期待したい。 住民は関心のない人が多いよう。 体制整備の充実。(実践活動のできる) コロナのこともありますが、もう少し地区公民館の役割を見直してほしい。 公民館から組織が変わっても連携し、雑談の中からヒントやひらめきがあるかもしれないので、コーディネーターには地域づくり活動センターに足を運んでいただき、互いに顔見知りになって話し合いができたと思う。 	
中間評価委員の評価	2.8	

5 できている 4 概ねできている 3 標準的 2 やや不十分 1 できていない

基本目標 3 福祉サービスの充実と包括的な相談体制づくり

実施計画 1 相談体制の充実

実施項目	実施状況 (内部評価)
1 総合的な相談支援体制の整備	4
2 法律相談等の専門相談の実施	5
3 地域包括支援センターとの協働による介護・福祉・認知症相談の実施	4
4 民生児童委員定例会及び地域ケア会議等での情報共有	4

5 できている 4 概ねできている 3 標準的 2 やや不十分 1 できていない

実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 福祉の総合相談窓口として心配ごと相談・法律相談等の各種相談事業を実施し、相談者の適切な問題解決に努めた。【令和3年度実績】法律相談 91件、心配ごと相談 20件、登記相談 23件 民生児童委員定例会及び地域ケア会議等において、情報共有とネットワークづくりに努めた。
改善点	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民の潜在的な相談ニーズの解決のため、引き続いて総合相談窓口の運営と関係機関とのネットワークづくりを図る。
計画の見直し	<ul style="list-style-type: none"> 特になし

中間評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> 現在行われている事業については、しっかりやっけていただいていると思っています。そこで出てきにくい地域住民のニーズをつかむ手立てなど、更に工夫してください。 各支所において、相談事業を実施されている。より住民が安心して相談でき、成果の上がる事業となしてほしい。 相談体制づくりは出来ているが、相談者が少数である。 関係組織や機関との連携強化。 「介護・福祉・認知症相談の実施」は地域毎に開催し「出来ている」と評価します。
中間評価委員の評価	3.9

5 できている 4 概ねできている 3 標準的 2 やや不十分 1 できていない

実施計画 2 福祉サービスの充実

実施項目	実施状況 (内部評価)
1 介護及び介護予防サービス部門等の適切な運営	5

2 福祉人材養成・確保に関する事業の実施	3
3 訪問介護員資質向上の推進	5
4 介護支援専門員資質向上の推進	5
5 介護用品販売事業	4
6 新型コロナウイルス感染症への対応	4

5 できている 4 概ねできている 3 標準的 2 やや不十分 1 できていない

実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険や障がい者総合支援などの各種福祉サービスを安定的に提供する体制づくりを行うとともに、利用者の生活の質の向上や自立に向けて質の高いきめ細やかなサービスの提供を図った。 ・各種研修会への参加や内部研修の実施等により、職員の資質向上に努めた。 ・新型コロナウイルス感染症への対応として、十分な感染防止対策を前提とした介護サービスの提供を図った。
改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・各種福祉サービスを引き続いて提供することにより高齢者等の地域での生活を支え、地域包括ケアシステムの構築に努める。
計画の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし

中間評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者支援については、しっかりとした取組みがなされていると思います。高齢者でも障がい者でもない、成人の支援（例えば一人暮らし職休人）はどうなっているのでしょうか。 ・利用者に応じた、よりよいサービス向上（質の向上）に努めてほしい。 ・社協ブランドの介護福祉サービスの確立を望みます。 ・かなり浸透していると思う。 ・在宅介護者への支援強化。 ・親との関わりが無く、仕事に行けず、一人暮らしで引きこもってしまっているような若年層に対する支援について、行政や社会福祉協議会が力を併せて取り組んでいただければと思う。また、このようなケースは表面化しにくいと思われ、民生委員や区長を通じてニーズを拾い上げる仕組みができればと感じる。 ・ヤングケアラーは表面化しにくい課題ではないかと思う。社協や行政だけでなく、地域のあらゆる団体が一丸となって取り組む必要があると思う。
中間評価委員の評価	3.9

5 できている 4 概ねできている 3 標準的 2 やや不十分 1 できていない

基本目標4 安全・安心のまちづくり

実施計画 1 福祉サービス利用援助事業の推進（日常生活自立支援事業）

実施項目	実施状況 (内部評価)
1 福祉サービス利用援助事業の推進（愛媛県社協：受託事業）	4
2 生活支援員の活動支援	4

5 できている 4 概ねできている 3 標準的 2 やや不十分 1 できていない

実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 判断能力に不安がある方でも地域で安心して暮らすことができるよう、制度の周知を図るとともに、適切に福祉サービスを受けることができるよう支援を行った。
改善点	<ul style="list-style-type: none"> 不足している生活支援員の確保に努める。
計画の見直し	<ul style="list-style-type: none"> 特になし

中間評価委員 の意見	<ul style="list-style-type: none"> 生活支援員の方が安心して、誇りを持って取り組めるような体制づくりが大切だと思っています。 支援員の充実強化が必要。 市民後見人の養成（案）とともに、生活支援員の養成等、見直しが必要かと思えます。（ボランティアの意識の醸成から段階的な養成が必要ではないかと考えています。）
---------------	---

中間評価委員 の評価	3.8
---------------	------------

5 できている 4 概ねできている 3 標準的 2 やや不十分 1 できていない

実施計画 2 成年後見制度の推進

実施項目	実施状況 (内部評価)
1 成年後見人後見業務の実施	4
2 法人後見運営委員会の運営	4
3 法テラス、関係機関との連携	3
4 成年後見制度利用促進基本計画との連動	2
5 成年後見制度の啓発	3

5 できている 4 概ねできている 3 標準的 2 やや不十分 1 できていない

実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 判断能力が不十分になっても地域で安心して暮らすことができるよう、西予市社協が成年後見人となる法人後見事業を実施し、意思決定が困難な人の支援を行った。
------	--

改善点	・西予市が設置する中核機関との連動及び成年後見制度利用促進基本計画に沿った成年後見制度の推進。
計画の見直し	・特になし

中間評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・この制度についての理解が十分ではないので、何とも言えませんが、しっかり啓発してください。私も学びたいと思います。 ・西予市社協が成年後見制度の業務を行っていることを、地域住民にもっと周知されたい。 ・制度の浸透が不十分である。(知らない人が多い) ・詳しくわからない。 ・成年後見制度の需要は、増加していると認識しています。
-----------	---

中間評価委員の評価	3.2
-----------	------------

5 できている 4 概ねできている 3 標準的 2 やや不十分 1 できていない

実施計画 3 地域ささえあいセンターの運営

実施項目	実施状況 (内部評価)
1 生活支援相談員の配置	5
2 個別訪問の実施(相談)	4
3 生活再建に必要な情報の提供	4
4 行政や関係機関との連携	5
5 住民が交流する場所づくり(サロン活動等)	4
6 伴走型支援体制の確立	3

5 できている 4 概ねできている 3 標準的 2 やや不十分 1 できていない

実施状況	西予市地域ささえあいセンターは、平成30年7月豪雨災害で被災した方(建設型仮設100世帯、みなし仮設31世帯、在宅・その他571世帯)の生活支援や地域のコミュニティー再生支援などを目的に平成30年10月から西予市より運営を受託し、訪問活動や生活再建に必要な情報提供等の支援を実施してきた。令和4年3月現在、建設型入居者3世帯(野村1世帯、明間2世帯)みなし仮設入居者2世帯(野村1世帯、明間1世帯)となり、概ね被災世帯の住宅再建がすすんだ。
改善点	・特になし
計画の見直し	住宅再建状況を踏まえ、令和4年3月31日をもって地域ささえあいセンターは閉所となったが、西予市社会福祉協議会では、センターの独立した支援活動から、西予市社会福祉協議会の取り組む地域福祉事業や生活支援体制整備事業及び西予市生活困窮者自立相談支援事業など既存の事業を活用した支援活動へ移行し、愛媛県、西予市、民生児童委員協議会等と連携・連動しながら伴走型支援者として支援活動を継続する。

中間評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・しっかりとした取組みが行われているのではないかと認識しています。 ・継続的な支援の充実と人的ケアが必要。 ・地域ささえあいセンターとしての社協の活動は、評価が高いと思われます。
-----------	---

中間評価委員の評価	3.8
-----------	------------

5 できている 4 概ねできている 3 標準的 2 やや不十分 1 できていない

実施計画 4 援助及び生活支援

実施項目	実施状況 (内部評価)
1 生活福祉資金貸付事業の実施	5
2 緊急食糧支援ネットワーク事業の実施	5
3 生活困窮者自立支援制度における福祉総合相談センター（市）との連携	4
4 フードドライブ実施体制の研究	2
5 緊急小口資金及び総合支援資金（生活支援費）の特例貸付の実施	4

5 できている 4 概ねできている 3 標準的 2 やや不十分 1 できていない

実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・行政で実施している生活困窮者自立支援事業（福祉総合相談センター）と連携を図りながら、生活に困窮している方々に金銭面での相談援助や食料支援などを行い、身近な相談窓口として地域で安心して生活できるような体制づくりに取り組んだ。 ・新型コロナウイルス感染症の影響によって収入が減少した方に対して、緊急小口資金及び総合支援資金（生活支援費）の特例貸付により生計維持のための支援を行った。（西予市 279件 104,100,000円） 	
改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急小口資金及び総合支援資金の特例貸付の債務者に対し、必要に応じて償還に向けた支援を行っていく。 	
計画の見直し	見直し前	見直し後
	1～4 省略 5 緊急小口資金及び総合支援資金（生活支援費）の特例貸付の実施	1～4 省略 5 緊急小口資金及び総合支援資金（生活支援費）の特例貸付の償還に向けた支援
※ アンダーラインが変更部分	見直しの理由	・特例貸付の終了と償還開始に伴い、必要に応じて償還の相談支援を行うため

中間評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・フジ宇和店にはフードドライブがあるようですが、どのくらい活用されているのでしょうか。ぜひ、各地域活動センターにも設けてみてはどうでしょうか。
-----------	---

	<ul style="list-style-type: none"> • 償還に向けた支援は大変難しいことだと感じる。支援を受けた側の立場を十分に配慮した上で、推進してほしい。 • セーフティネットの一端を担う分野。複雑多岐な原因を抱える社会的弱者に寄り添った、きめ細かな取組みを引き続き期待したい。 • コロナ禍・物価高で生活困窮者が増加すると思われるなか、住民一人一人に合った支援を願う。 • 支援情報提供の充実と窓口の明確化。 • フードバンクとして、コンビニエンスストア・らくれん等との食に関する協定ができたらと思いました。
--	---

中間評価委員 の評価	3.7
---------------	------------

5 できている 4 概ねできている 3 標準的 2 やや不十分 1 できていない

基本目標 5 信頼される社会福祉協議会づくり

実施計画 1 社会福祉協議会の基盤強化

実施項目	実施状況 (内部評価)
1 西予市社協の運営体制の整備と基盤強化	5
2 地域福祉推進力の強化	4
3 地域福祉活動の推進	4
4 地域福祉活動計画の見直し	3

5 できている 4 概ねできている 3 標準的 2 やや不十分 1 できていない

実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・市民に信頼される社会福祉協議会を目指し、法人の適切な運営のために西予市、西予市民生委員・児童委員協議会、西予市行政連絡協議会、ボランティア団体、社会福祉法人等の各関係団体と一層連携し、理事会や評議員会等を適宜開催し、運営方針をはかりながら事業の推進に取り組んだ。 ・研修会への積極的参加及び研修事業の実施により、社協の役職員自らが研鑽に努めた。
改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・西予市の地域福祉の拠点として、様々な課題に引き続き取り組む。
計画の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし

中間評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・前進しつづけなければという気持ちを持って、努力されていることが私には伝わってきています。これからも進化する姿勢を持ち続けてください。 ・限られた人的資源と予算の中で、新たな事業に挑み、困難な福祉課題に真摯に向き合う姿がうかがえる。 ・地域住民にとって住みやすい環境になるよう取り組んでいただきたい。 ・身近な連携強化。(関係機関との)
中間評価委員の評価	3.8

5 できている 4 概ねできている 3 標準的 2 やや不十分 1 できていない

実施計画 2 関係機関との連携強化

実施項目	実施状況 (内部評価)
1 社会福祉法人連絡協議会の開催	2

2 法人間のネットワークの構築	4
3 法人の連携による福祉教育に関する事業の推進	3
4 法人の連携による成年後見制度の受任体制の整備に関する研究	3

5 できている 4 概ねできている 3 標準的 2 やや不十分 1 できていない

実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 西予市における地域共生社会の実現を目指し、包括的な支援体制を確立するため、行政・社会福祉協議会・社会福祉法人の連携強化と情報共有を図った。 福祉施設内で新型コロナウイルスの感染が広がった際には、災害時応援協定に基づき職員を派遣するなど、法人間の連携による協力を行うことができた。 	
改善点	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会における包括的な支援体制の構築に向け、今後も行政・社会福祉協議会・社会福祉法人の連携強化に取り組む。 	
計画の見直し	見直し前	見直し後
	1～4 省略	1～4 省略 5 行政・社会福祉協議会・社会福祉法人・企業の4者連携の研究
※ アンダーラインが変更部分	見直しの理由	<ul style="list-style-type: none"> 愛媛県が主催し、地域共生社会の実現を目指し、包括的な支援体制を確立するため、行政・社会福祉協議会・社会福祉法人・企業の4者連携枠組み構築の取組みが始まったため。

中間評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> 各社会福祉法人との連携強化は、最重要課題かもしれません。そのための具体的な取組みをどんどん進めていってほしいと思います。 連携機関同士の情報共有の充実。 BCP 等を持ち寄り、法人間での協議が必要と思われる。 単独での活動には限界があると感じる。事業を行う上で、住民や関係機関を巻き込んだ活動をいかに浸透させていくかが大事。 	
中間評価委員の評価	3.2	

5 できている 4 概ねできている 3 標準的 2 やや不十分 1 できていない

第3章

住民座談会

第3章 住民座談会

1 開催目的

令和元年に開催した住民座談会から3年が経過し、その間、新型コロナウイルスの感染拡大や更なる人口減少などにより住民同士のつながりの希薄化が進むなど、地域社会を取り巻く環境が大きく変化してきている。

このような中、前回の座談会で話し合われた地域の課題やその解決に向けた取り組みの状況などについて再び話し合う事を通して、地域福祉活動計画の基本理念である「みんながささえあい くらして安心が体感できるまちづくり」の実現に地域で取り組んでいただくことを目的として、「令和4年度 住民座談会」を開催した。

2 開催プログラム

19:00~19:10	開会行事・主催者あいさつ
19:10~19:40	講演 【演題】 「みんながささえあい くらして安心ができるまちづくり」 【講師】 公立大学法人新見公立大学 健康科学部 地域福祉学科 教授 高杉 公人 氏
19:40~19:50	事例紹介（市内で住民座談会から地域の活動に繋がった事例の紹介）
19:50~20:00	休憩
20:00~21:00	グループワーク 【司会】 公立大学法人新見公立大学 健康科学部 地域福祉学科 教授 高杉 公人 氏
20:10~20:15	座談会の説明
20:15~20:20	前回の座談会の振り返り
20:20~20:30	地域で行ったこと（KJ法による）
20:30~20:40	地域でできること（KJ法による）
20:40~20:55	各グループ発表
20:55~21:00	講師による全体講評
21:00	閉会

3 実施概要

地区	日程	会場
明浜地区	令和4年9月14日(水)	高山公民館 3階 大ホール
宇和地区	令和4年11月18日(金)	西予市教育保健センター 4階 大ホール
野村地区	令和4年10月18日(火)	野村公民館 3階 大ホール
城川地区	令和4年10月24日(月)	城川支所 3階 大会議室
三瓶地区	令和4年10月21日(金)	三瓶支所 2階 多目的ホール
惣川地区	令和4年11月4日(金) (14:00~16:00)	惣川公民館 2階 大ホール
大野ヶ原地区	令和4年10月28日(金) (14:00~16:00)	大野ヶ原集会所

- 惣川地区、大野ヶ原地区は野村地区とは別に開催
- 大野ヶ原地区は意見交換会方式により開催

(明浜町) 俵津地区

地域の課題	地域で行ったこと	達成度	地域で出来ること
<ul style="list-style-type: none"> ・買物弱者の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・移動販売車はヒガシ君のみ（3年前） ・弁当販売（ゆめさく屋、市川さん） ・販売場所が決まっていた 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒガシ君の販売時に住民の御用聞きサービスを追加 ・駐車場所も増加（希望場所に行くようになる） ・（新）フジの移動販売車 ・（新）ニュー兵頭の移動販売車 ・（新）宇都宮青果店が弁当販売開始
<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の安全な避難が心配 	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の避難訓練（コロナで実施できていない） ・訓練はできていないが、個人的に常に気にするようにしている。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣高齢者への呼びかけ ・避難ルートの複数化を検討
<ul style="list-style-type: none"> ・少子化で地方祭が運営できなくなる 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナで中止（今年是要検討） ・コロナが落ち着いたら、再開・継続 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・地方祭があれば、協力の気持ちあり。行って欲しいと願っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・独居高齢者のゴミ出しが大変 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者のみを対象とした俵津スマイルの粗大ゴミ回収 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・対象を全戸に広げる
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の産業の後継者不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・農地ヘルパー組合 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・若手後継者で新会社設立『天晴農園』 ・ゲストハウス増加（空家活用） ・ゲストハウス利用者を募る ・田舎で働き隊、隊員2名活動中 ・（新）川原鮮魚店

【担当者(ファシリテーター)のコメント】

移動販売や弁当販売の業者の新規参入があり、更に御用聞き等の地域住民のニーズに寄り添ったサービスが実施されている。また、駐車場所も多くなり、地域の高齢者が買い物をしやすい環境が醸成されつつある。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響は色濃く、地域行事や避難訓練等が実施できない状況が継続しているが、地域からは再開を望む声が聴かれた。地域の若い方が活発に行動されており、今後の展開に期待したい。

(明浜町) 狩江地区

地域の課題	地域で行ったこと	達成度	地域で出来ること
<ul style="list-style-type: none"> 一人暮らし高齢者の増加 (介護が必要になっても、一人で生活できる地域づくり) コロナで外出しづらい高齢者も…	<ul style="list-style-type: none"> サロンを開催している クローケーも活動中 毎月の配食サービス 狩江食堂、渡江食堂(それぞれ年1~2回) 健康づくりのためにウォーキングをしている 	4	<ul style="list-style-type: none"> 緊急時の対応システムの導入推進 スナック和子の開業
<ul style="list-style-type: none"> 仕事、雇用について 	<ul style="list-style-type: none"> 朝どり野菜の販売 無茶々園での外国人の就労 景観事業の促進(情報発信) 移住者の定着 みかん農業就労 	5	<ul style="list-style-type: none"> 協力隊、研修生(地元後継者の育成含む) 高齢者定年帰農者の雇用促進(指導等含む) 空き家の情報管理 梅干しづくり(伝統継承)
<ul style="list-style-type: none"> 防災について 防災の意識があまり高くないのでは? 		3	<ul style="list-style-type: none"> 名簿の更新と要援護者情報個別計画
<ul style="list-style-type: none"> 地域活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 俳句の句会、コーラス 田舎体験ガイド等の実施 地域外の方々との交流 地域おこし協力隊の着任 修学旅行の誘致 空き家改修! かりとりもさくの会、会長がすばらしい! かりとりもさくの会、会長の任期の延長! 大学生による地域課題支援 	5	
<ul style="list-style-type: none"> 交通が不便 		3	

【担当者(ファシリテーター)のコメント】

「防災について」「交通が不便」の課題については、これまでの取り組みや、今ある資源の活用などを続けられ、現状維持の「3」という達成度である。「仕事、雇用について」「地域活動の充実」についてはたくさんの取り組みを進められており、これまで伝統の継承や今後の人材の育成など、今後の方針も見据えられている。「一人暮らし高齢者の増加」という課題については、民生委員の方の見守りや地域のサロン、地域づくり組織の取り組みにより安心して生活できる地域となっているように感じた。

(明浜町) 高山・宮野浦地区

地域の課題	地域で行ったこと	達成度	地域で出来ること
・役になるのを嫌がる人が多い		3	<ul style="list-style-type: none"> ・役の分担について話し合う場を設ける。(例として、区に関する役各区の世帯代表者が集まり協議するなど) ・順番での引受を確立する。 ・公職の場合 委員数の見直しを行政へ依頼する。
・各種団体の消滅・休会	<ul style="list-style-type: none"> ・若者・壮年の地域づくり団体が結成された。 ・老人クラブ休会后、再会 ・生活研究会あじさいグループでボランティア活動を行っています。缶ひろいとか社協の手伝い。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・活動範囲の見直し(身の丈に合った範囲) ・団体の統合 ・これから設立する地域づくり活動センターで協議
・地域活動への参加者が少ない	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員で元気サロンを2ヶ月に1回行っています。 ・地域づくり高山よいとこな会 福祉関係、産業観光関係、情報発信関係 ・参加者がほぼ同じである。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・“楽しみながら”参加できるような雰囲気、仕組みづくり
・避難場所まで高齢者が逃げられない	<ul style="list-style-type: none"> ・「事前復興」ワークショップを開催 ・盆おどり、地区清掃、避難訓練 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・支援者の確保 ・要支援者避難訓練
・子どもとの関わりが少ない	<ul style="list-style-type: none"> ・多目的広場の整備 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史・生活文化の伝承活動 ・多目的広場での交流活動

【担当者(ファシリテーター)のコメント】

自主防災組織も活発に活動されており、「事前復興」ワークショップに取組まれ、当時は、自力で避難できない高齢者はいなかったものの、今後、自主避難できない要支援者避難を支援する支援者の確保が課題のようだ。各種団体の消滅・休会については、組織再編の検討などを行い、休会していた老人クラブが再会され、若者・壮年の地域づくり団体が結成されるなど、達成度も④となっている。今後は、これから設立する地域づくり活動センターで協議されていくとのことであった。

地域づくり活動センターが設立されることにより、地域のことは話し合う機会が増えたように思えた。

(明浜町) 田之浜地区

地域の課題	地域で行ったこと	達成度	地域で出来ること
<ul style="list-style-type: none"> ・Aコープの撤退など、必需品がすぐに手に入らない(店がない) 	<ul style="list-style-type: none"> ・生協の利用 ・衣料品の移動販売 ・週1回フジの移動販売 ・鮮魚、惣菜の移動販売 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物代行 ・自分の買い物のついでに、買い物をしてくる。(それを依頼されたらいいな。)
<ul style="list-style-type: none"> ・独居老人が心配 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員さんによる、見守り(給食サービス事業) ・老人クラブの解散(老人クラブでの見守りができなくなった) ・隣近所での高齢者への声かけ ・日常的な隣近所の見守り(夜電気がつかない) 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・声かけの輪を広げる
<ul style="list-style-type: none"> ・災害時に高齢者の避難が心配 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主防災による安否確認 ・年2回の避難訓練 ・津波の訓練現在はコロナでできていない ・台風後の様子の確認 	2	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の実施
<ul style="list-style-type: none"> ・老人の集う場所が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・体操教室の実施(週1回) ・年に7回のサロン開催 ・高齢者を対象とした公民館事業(講座教室) ・朝、夕方に浜でお話会 ・カラオケ、俳句、手芸のサークル 	2	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナがおさまれば自然回復すると予想
<ul style="list-style-type: none"> ・空き家の増加 			<ul style="list-style-type: none"> ・古民家カフェ ・空き家リメイクフォーム ・地区外の方が利用できる宿泊施設
<ul style="list-style-type: none"> ・産業の衰退 			<ul style="list-style-type: none"> ・郷土料理づくり ・大学生による情報発信(SNSなど)

【担当者(ファシリテーター)のコメント】

1 人暮らしの高齢者など高齢者に関する課題について、日常的な近隣での見守りや、住民圏での声掛けの輪を広げるなど地域で見守ってほしいという、強い意識を感じました。

田之浜地区では、新たな課題も出た。「空き家の増加」については今後、地区の空き家をリフォームして、カフェや誰でも宿泊ができる場所になればとのこと。「産業の衰退」については、地元の郷土料理を活かした活動や、大学生と一緒に SNS を使った魅力発信など魅力的な活動をされている。

(宇和町) 多田地区

地域の課題	地域で行ったこと	達成度	地域で出来ること
<ul style="list-style-type: none"> ・店が少ない (買い物弱者) 	<ul style="list-style-type: none"> ・移動販売(フジ) ・ATM(郵便局のみ) ・パン屋さんができた。 ・キッチンカー(梶原農園) 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・センター化で物販 ・無人販売 ・お店情報(移動販売等)の回覧
<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の要援護者への対応 		3	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体との情報共有 ・各部落の避難マップ ・安心キットやそれに代わるものの普及
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化による自治会組織の弱体化 	<ul style="list-style-type: none"> ・役員の任期を1年→2年。(複数回担う) ・区長のなり手がいない。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・やれる人が逃げない
<ul style="list-style-type: none"> ・結婚していない人が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・結婚した人がいる。 	2	<ul style="list-style-type: none"> ・婚活イベント ・マッチング(奨励金) ・出会いの場 ・企業誘致
<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少で行事ができない (例 亥の子) 	<ul style="list-style-type: none"> ・移住者があった。 		<ul style="list-style-type: none"> ・人口減に見合った行事の見直し ・担い手の負担軽減

【担当者(ファシリテーター)のコメント】

以前から地区内で買い物ができないことが課題ではあったものの、キッチンカーやパン屋さんが新しくできたり、移動販売車が来るようになったりと、課題が改善されている部分もあるが、やはり、生活のしづらさを感じておられているようであった。

地域づくり活動センター移行後、センター内での物販に期待されているとの声があった。

その他の課題の多くが、人口減少に伴うものであり、旧体制からの転換が迫られているように感じた。

(宇和町) 中川地区

地域の課題	地域で行ったこと	達成度	地域で出来ること
・車がないと生活できない	・デマンドバス（タクシー）の利用	2	・ボランティア登録 （保険が心配）
・介護が必要になったときの老後が心配	・声掛け訓練（認知症） ・クローケー健康づくり ・地域に介護施設がたくさんある（安心） ・加茂地区に農業法人（担い手・地域おこし）	4	・出前講座の利用 ・地域の医療従事者による介護予防講座等の開催
・ゴミの分別ができない方もいる	・ふれあいゴミ収集の利用 ・責任者の方の巡回（当番制）	3	・分別の仕方講習会
・危険な空き家があり、子どもたちの通学に危ない	・スクールガードの見守り（登校時） ・通学路の変更 ・保護者の送迎	4	・住民の通勤途中での見守り・声掛け（特に下校時）

【担当者(ファシリテーター)のコメント】

「介護が必要になったときの老後が心配」という課題に対して、声掛け訓練やクローケー健康づくりなどが取り組まれており、「4」という高い達成度になっている。地域で出来ることとして、医療従事者が多い地域であるため、医療従事者による介護予防講座などができないかという地域の強みをいかしたアイデアも上げられた。「危険な空き家があり子どもたちの通学に危ない」という課題に対しても、スクールガードの見守り、通学路の変更など積極的に取り組まれており高い達成度になっている。「婦人会の解散」という課題に対しては、壮年会・ことぶき会に活動を引き継いでおり、課題としてはもう消して欲しいとの意見がでた。

「車がないと生活ができない」「ゴミの分別ができない方もいる」という課題があるが、地域で出来ることとして上げられた「ボランティア登録」や「分別の仕方講習会」にぜひ取り組んでいただきたい。

(宇和町) 石城地区

地域の課題	地域で行ったこと	達成度	地域で出来ること
<ul style="list-style-type: none"> ・災害等への備え ・自主防災組織はあるが、実際には活動できていない。防災士の育成ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練 ・防災用品の充実と住民への周知 ・防災士の育成 ・地域防災組織による研修会（コロナでなかなかできん） ・計画書はできている ・備蓄用品の備え、点検、交換 ・全体での避難計画及びこえかけたいの中で近所の要援護者が出れば報告 ・自分ノート全戸配布 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・備蓄品の棚卸し
<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動の担い手不足 ・伝統芸能の後継者がいない（七福神の高齢化） 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域おこし協力隊 ・ロマンの里応援隊の募集 ・区長文書老人クラブが担当 ・亥の子、祭の牛鬼、浦安、稚児の舞、五ツ鹿踊り ・お寺…檀家が集まり清掃 ・活動内容や役員の仕事を見直し、時代に合うよう変更 ・神社の清掃を全氏子で行う 	2	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家バンク推進 ・石城地区のホームページ
<ul style="list-style-type: none"> ・交通が不便 ・家にいても、訪問診療ができるシステムをつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ・フジの移動販売がサロン、お年寄りの話し合いの場になっている ・コープのお弁当配達 ・小原のあい笑さんを独居の方が利用 	2	
<ul style="list-style-type: none"> ・近所つきあいが希薄になっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・こえかけたい・見守り協力者をネットワーク化する 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ ・地域内で人が集まる小さなイベントの工夫

地域の課題	地域で行ったこと	達成度	地域で出来ること
	<ul style="list-style-type: none"> • ツルの見守隊 • サロンを楽しみにして • 老人クラブ等による清掃作業 • 料理、野菜のおすそ分け文化 		<ul style="list-style-type: none"> • 石城地区全体でこえかけたいを

【担当者(ファシリテーター)のコメント】

「災害等への備え」「近所づきあいが希薄になっている」の課題について達成度は「4」である。ご近所のつながりを基本として、防災にも力を入れられている。しかし、防災対策について石城地区内5地区の進み具合に差があるようである。「地域活動の担い手不足」に関して、寺社等の活動については可能な形で地区ごとに継続されているが、伝統芸能等の継承については危惧されている。今後、地域のホームページ等による情報発信により、地域住民も地区の良いところを認識し地域づくりの担い手として関係していくことが大切だと感じた。

(宇和町) 宇和地区

地域の課題	地域で行ったこと	達成度	地域で出来ること
・ 独居高齢者の孤独死	・ 個人的に声掛けをしている ・ 給食サービスで訪問している ・ いきいきサロンの開催 ・ 独居高齢者の見守り・訪問	3	・ お隣さんづくり組織
・ デイサービスやサロンに行けず行き場の無い人	・ 婦人会によるふれあい郵便	3	・ どのようなサービスがあるのかという事を知らず
・ 生活福祉バスが近くを通らず買い物等に不便な地域がある	・ フジの移動販売車が週2回来て助かっている。 (地域の声掛けもあり利用者が増加) ・ 生協利用者が増えている	4	・ バス停の検討⇒夏の暑さや雨、冬は風をしのげるような対策。椅子を置くなどする
・ 団地など、中のつながりがほとんど無い地域がある	・ 防災訓練での炊き出し訓練 ・ 災害時に黄色の手ぬぐいを掲示する活動 ・ 納涼祭をしていたがコロナで休止中 ・ ひだまりサロンの開催	3	・ 亥の子など子供のイベントへの参加
・ 高齢者等の動向がわからない	・ 区長さんなどに聞いてみる事を実施している	2	

45

【担当者(ファシリテーター)のコメント】

中心地であるため利便性は良いが団地などへの転入者が多く、地域の繋がりが希薄化している。また、コロナの影響を受け納涼祭などのイベントが中止となり、交流を深める事が困難となっている様子がうかがえる。一方で、防災意識が高く防災訓練を実施し、災害時には黄色い手ぬぐいを掲示する活動を行ったり、買い物等が不便な地域については、移動販売や生協を上手に活用されたりしている。高齢者等への見守りは「お隣さんづくり組織」に取り組んでいただき、地域での見守りや声掛けなど住民間での助け合いの力をより一層深めていただきたい。

(宇和町) 田之筋地区

地域の課題	地域で行ったこと	達成度	地域で出来ること
・医療にかかりたくても経済的に難しい	・健康長寿を伸ばす運動 (健康増進) ・料理づくり(食改)	4	・病気にかからない丈夫な体(健康)をつくる 取り組み
・交通手段が乏しい	・デマンドタクシーの周知	3	・田之筋ボランティアタクシー ・ネット注文の取りまとめ
・若い人が少ないため活気がない	・田之筋マルシェ ・Uターン ・地域づくり学習会 ・(現状) 小学校の児童数は増えている	5	・移住者へのプレゼント
・老人会への入会者が少ない	・勧誘	3	・イメージチェンジ(名称とか)
・いきいきサロンへの入会者が少ない	・勧誘 ・サロンの広域化	4	・年齢枠、地域枠

46

【担当者(ファシリテーター)のコメント】

地域の活動が活発に取り組まれている地域で、「若い人が少ないため活気がない」という課題に対して、田之筋マルシェ・地域づくり学習会などの活動が充実していることから「5」という高い達成度になっている。また、今後の取り組みとして「移住者へのプレゼント」はユニークなアイデアで、地域の温かみを感じる。その他、サロンや健康づくり、食改などの活動も積極的に取り組まれていることからそれぞれ「4」という比較的高い達成度となっている。他方、「老人クラブの入会者が少ない」「交通手段が乏しい」などといった課題もあり、地域で出来ることとして上げられた「田之筋ボランティアタクシー」となどにぜひ取り組んでいただき、よりよい地域づくりに繋げていただければと思う。

(宇和町) 下宇和地区

地域の課題	地域で行ったこと	達成度	地域で出来ること
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者のゴミ出しが難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミステーションが近くに設置してもらった ・環境委員がゴミステーションで分別、清掃(毎週2回) ・ゴミ出しの難しい人の支援している 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1人が分別の意識づけが必要 ・1人暮らしの高齢者のゴミ出し支援の体制があれば
<ul style="list-style-type: none"> ・避難所が遠い 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難用支援者の避難時の計画を今年度中に作成 ・公民館や各集会所に備蓄食料と備品を整備した 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・早めの避難を意識する(早めに公民館)
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが少なくなり伝統行事が消えていく 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民からの要望があり、夜市を実施した(参加者も多かった) 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の統合、配合を検討 ・役員の負担軽減
<ul style="list-style-type: none"> ・老人クラブに加入する方がいない 	<ul style="list-style-type: none"> ・下川は老人クラブが消滅した ・シニアクラブ(行事の時には手伝うグループ)ができた 	2	
<ul style="list-style-type: none"> ・耕作放棄地が増えている 		2	<ul style="list-style-type: none"> ・地域おこし協力隊の募集

47

【担当者(ファシリテーター)のコメント】

以前出た課題で「子どもが少なくなり伝統行事が消えていく」については、下宇和だけでなく各地で起こっている課題で、その上コロナによる感染対策のため自粛をせざる得なくなり、消滅していく所もあるだろう。しかし、下宇和地区では住民からの要望をもとに夜市の実施や行事の見直し、役員の負担軽減などにより、伝統行事を今できる形で残していこうと頑張られている。

(宇和町) 明間地区

地域の課題	地域で行ったこと	達成度	地域で出来ること
<ul style="list-style-type: none"> ・独居・高齢世帯が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・給食サービス ・婦人会・老人クラブが独居世帯への訪問 ・独自の給食サービス 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の取組みを継続する。
<ul style="list-style-type: none"> ・買物難民が多い ・免許が無いと不便 	<ul style="list-style-type: none"> ・移動販売 ・コープさんが配達してくれる。 ・地域の助け合い 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の取組みを継続する。
<ul style="list-style-type: none"> ・う回路が少ない(災害時に孤立する) 	<ul style="list-style-type: none"> ・無事ですタオル ・命のカード 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の取組みを継続する。

【担当者(ファシリテーター)のコメント】

それぞれの課題に取り組みされており、達成度も全て④であった。

移動販売が来るようになってから「買物に困る。」という話は聞かなくなり、近所での助け合いも進んでいるようです。災害時に備えて「無事ですタオル」を活用しながら、避難訓練を実施されたようで、避難台帳は作らず(個人情報関係)、避難時には命のカードを活用することを推進している。

今後としては、今取り組んでいることを継続して取り組むとのことであった。

(野村町) 野村地区

地域の課題	地域で行ったこと	達成度	地域で出来ること
<ul style="list-style-type: none"> ・若い人が都会に出て人口が減り、結婚しない独身者が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・野村高校の魅力化応援プロジェクト ・青年団との共働 ・地域イベントの推進 ・盆踊り大会 ・竹あかり事業 ・のむラブミーティング ・自治振で話し合い、飲み会 ・関係、交流人口の増加 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・野村 若者マッチング ・会合や集会のオンライン化 ・ますます交流人口増加
<ul style="list-style-type: none"> ・防災・安全について 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練の実施 ・防災セミナーの開催（南予きずな博） 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災マニュアルの作成 ・防災マップの活用 ・町内の防災士の方による防災指導
<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通機関が弱い 	<ul style="list-style-type: none"> ・移住マッチングでのオンラインミーティングの活用 	2	<ul style="list-style-type: none"> ・移住マッチングでのオンラインミーティングの活用 ・無人のデマンドタクシーを試行（双海のような企業とタッグ）
<ul style="list-style-type: none"> ・産業の活性化について（宿泊施設がない、空き家等が多い） 	<ul style="list-style-type: none"> ・エントハウス（ゲストハウス） ・空き家、店舗の活用した写真展、イベント ・緒方ラボ ・竹あかりの作業所 ・心のバリアフリー-in のむら 	5	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信 ・ステッカーの認知 ・多様性のある社会参画による地区の活性化 ・エントハウスとの連携 ・後継者マッチング事業
<ul style="list-style-type: none"> ・後継者不足で農業弱体化のため荒れた耕作放棄地が増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンターが増えた ・新規就農者の定住と支援 ・6次産業化のモデル作り 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・草刈り隊を増やしたい ・稼ぐ農業とのモデル化

【担当者(ファシリテーター)のコメント】

産業の活性化については、以前地域おこし協力隊として活動されていた方がゲストハウスをされ、地区内の空き家を使って野村の過去の写真を展示するイベントもされていました。

また、みんなが暮らしやすくまた、どんな人でも来やすい町づくりのために自治振興協議会が「心のバリアフリーin のむら」という活動をされました。町内の事業所も快く協力されており、住民の繋がりが町を良くしたい、盛り上げたいという気持ちが強く伝わっていました。

(野村町) 溪筋地区

地域の課題	地域で行ったこと	達成度	地域で出来ること
<ul style="list-style-type: none"> ・買い物できる店がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・加工所の移動販売、火・木に行っている ・てるてる、さとみさん火・水・金の移動販売（注文できる） ・フジ水・土お年寄りの集まり ・直売…ブルーベリー、野菜（四郎谷、旭、鳥鹿野2箇所） ・コープ ・四郎谷の鳥菊 ・お酒、原井川ストアー、5、6人で大人のサロン、集まり 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・たよりなどで情報発信
<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化で地域行事ができなくなっている ・コロナで行事できにくい ・コロナのせいもあり意識が薄れてきた？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・お祭りで神輿 ・松溪こうし ・少ないながらも継続（コロナでできず、早くやりたい） ・老人クラブと愛護班でクロッキー ・亥の子…女の子もやる ・炭焼会 史談会 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい体育館ができると盛り上がる、盛り上げる！ ・誰がやるかが重要！（新しい地域活動の担い手養成）
<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らしの高齢者が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・長谷…LINEでつながっている ・鳥鹿野、四郎谷、松溪などサロンがある ・移動販売の利用 ・地元の人が新聞配達で見守り ・近くに行ったら声かけ ・民生委員の声かけ（給食） 	3	
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもとの接点がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・クロッキーで交流 		

地域の課題	地域で行ったこと	達成度	地域で出来ること
	<ul style="list-style-type: none"> ・川まつり ・愛りバー ・ほたる観賞会、勉強会 ・花火大会 	3	
<ul style="list-style-type: none"> ・農地が荒れる 	<ul style="list-style-type: none"> ・草刈り隊、農青連 ・地区ごとに白遊会等がある ・中山間事業で取り組み 	2	

【担当者(ファシリテーター)のコメント】

「買い物できる店がない」「少子高齢化で地域行事ができなくなっている」という課題に対して、様々な地域での取り組みや資源が上げられ、「4」という達成度になっている。「一人暮らしの高齢者が多い」という課題では、地域のつながりの場や地元での見守りの様子を教えていただいた。また「少子高齢化で地域行事ができなくなっている」という課題に対しては、コロナウイルス感染症の影響を受け、行事のやりにくさが増したことや行事が中止になり地域住民の意識が薄れているのではないかとという声もあった。しかし、老人クラブ等の地域の団体が地域行事の担い手となり、できることから行事を継続されている。「誰がやるかが重要」との声が出て、体育館ができることに期待もできるので、新たな地域行事の担い手として住民を巻き込み、楽しみながら地域を盛り上げていくことができるのではないかとと思われる。

(野村町) 中筋地区

地域の課題	地域で行ったこと	達成度	地域で出来ること
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自主防災組織 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難訓練 ・ 非常食の試食 ・ 消火栓の点検や使用方法の確認 	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 女性防災クラブ ・ 毎年研修
<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通の便が悪い 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活交通バス 	1	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの声が聞けなくなった 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動会 ・ GG (グランドゴルフ) 大会 ・ クリスマス会 ・ 愛護班 ・ 通学合宿 ・ 相撲 ・ サマースクール ・ お試し地域食堂 	3	
<ul style="list-style-type: none"> ・ お祭りの人手不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元以外の地区との担ぎ手の交流や高校生の応援 	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元出身者が帰省して手伝ってもらおう仕組み作り (強化) ・ 中高生の手伝い
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今、欲しい物の買い物ができない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 引継ぎ店舗ができた ・ 移動販売 (高瀬地区) 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 隣近所の声かけ ・ 高瀬地区以外で回ってもらえる移動販売 (地元店舗が回ってくれたら)

【担当者(ファシリテーター)のコメント】

コロナ禍のためお祭りなど地域の活動自体がなかなか出来なかったこと、目標は高くという地域の方の熱い意気込みのため、各課題の達成度は高くはないが、「子供の声が聞けなくなった」という課題に対して、サマースクールや通学合宿、今年度新設された自治振興会の女性部会のお試し地域食堂など積極的に取り組まれている。達成度「1」と評価された「自主防災組織」についても、コロナ流行前は避難訓練・非常食の試食会などが行われており、地域で出来ることとして上げられた「女性防災クラブ」や「毎年研修」にもぜひ取り組んでいただき、あたたかい地域づくりに繋がっていただければと思う。

(野村町) 大和田地区

地域の課題	地域で行ったこと	達成度	地域で出来ること
・防災意識	・防災訓練の実施	4	防災訓練 部落内で消火訓練の実施 ※日中若い方がいないので日頃家庭で有るもので消化している。
・地域に店がない (買い物難民)	・コープの利用 ・月水金の移動販売 ※集いの場になっている ・フジの移動販売	5	・あさぎりバス補助金体制 ・独自の販売者の検討
・若い人が少ない (消防隊員:・お嫁さん他)	・婚活の継続 ・青年団中心で婚活		・婚活の場の再設定

【担当者(ファシリテーター)のコメント】

コロナ禍であっても防災訓練を継続されている。

買い物難民支援については、移動販売やコープにて生活を維持されており、地域で出来ることとして前回同様に独自の移動販売車の検討を上げられている。移動販売は既に「集いの場」として意識されているようで、見守り等の福祉的な側面と結びつくと地域での安心した生活につながるのではないかと期待する。

婚活を推進されているようで、継続しての取組みが期待される。

(野村町) 横林地区

地域の課題	地域で行ったこと	達成度	地域で出来ること
<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の集落孤立 	<ul style="list-style-type: none"> ・無線訓練 ・防災講習会に参加 ・ドローンを飛ばしてみた！ ・防災マップの作成 ・ミニコンボにて土砂除去 	2	<ul style="list-style-type: none"> ・防災講習会の継続 ・各戸・家ごとの避難計画をつくる
<ul style="list-style-type: none"> ・地区の保安全管理の人手不足と高齢化による耕作放棄地の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規就農者確保 ・営農集団ができた ・応援隊が行政区で困難になった草刈りを！ 	2	<ul style="list-style-type: none"> ・シビエの活用
<ul style="list-style-type: none"> ・集落からの交通の便が悪い (買い物弱者) 		1	<ul style="list-style-type: none"> ・『地域の足』みんなの♡ ・地区のタクシー ・移動販売車を募る(地区外から) ・月に1、2回くらい横林地区で遊びを兼ねた買い物をしての小型バスを走らせたらいい！！
<ul style="list-style-type: none"> ・歩いて行ける集い場が少ないため、独居の方が1日誰とも会わない時がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・各集落でのおやつ会、おはなし会 		<ul style="list-style-type: none"> ・運動会の復活 ・おやつ会の回数を増やす ・定期的な家庭訪問と声掛け活動
<ul style="list-style-type: none"> ・独身が多い 		1	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント ・奈良野天満桜、花見とかライトアップに地区の独身者と地区外(県外)の独身者が参加する交流会(宣伝) ・婚活イベント ・婚活アプリ・結婚支援センターなどの活用 ・若い子が地区に残ってくれる。帰って来てくれる。

地域の課題	地域で行ったこと	達成度	地域で出来ること
			<ul style="list-style-type: none"> • にぎやかな集いの場づくり • 青年団活動 • “かり暮らし”でお酒も♡ • 趣味の集まり！

【担当者(ファシリテーター)のコメント】

地域づくり組織の活動が活発で、今後も地区内外の関係人口増加が見込まれる。その結果、これまで住民主体で行われ、現在の人口減少によって難しくなった草刈り等も、応援隊の協力を得て実施できており、今後も人口減少及び少子高齢化に対応していけるような仕組みづくりが行われている。また、高齢者が多い地域としての防災計画等、住み慣れた地域でいつまでも暮らしていけるように地域課題の解決に向けて積極的に取り組まれている。

(野村町) 惣川地区

地域の課題	地域で行ったこと	地域で出来ること
(病気・病院) <ul style="list-style-type: none"> ・病院が遠い。 ・病院へ行く足がない ・夜間病気になったら困る ・救急の場合、距離があるので命の危険のリスクが高い ・診療所の診療日が減った 		病院については行政に任せるしかない
(生活・暮らし・仕事) <ul style="list-style-type: none"> ・若い人に来てほしい ・1人暮らしで体調の不安がある ・働きたくても働く場所がない ・年々人口が急激に減っており、1人暮らしが多い ・産業がないので、若者が地元に戻ってこない。 ・後継者がいない ・孤独死の心配 ・水道の水が止まった時に自分で直せない ・情報化社会についていけない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり暮らし高齢者や子どもの見守り ・ボランティアで時々電話や見守りをしている。 ・ひとり暮らしの高齢者宅は近所や民生委員さんが日々気を付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・移住者求む！ ・移動販売とサロンのコラボ
(集いの場) <ul style="list-style-type: none"> ・サロン加入者が減っている ・健康スポーツがしたいが仲間がいない ・集える場所がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナがおさまったらサロン活動したい。 ・サロン活動で淋しさを紛らわせている。 ・サロンで行っていること ・梅干しづくり ・門松やイルミネーション ・鬼こんご 	<ul style="list-style-type: none"> ・旧友との出会いの場が欲しい

地域の課題	地域で行ったこと	地域で出来ること
<p>(交通・道路や場所の維持)</p> <ul style="list-style-type: none"> 交通の便が悪いので、車の運転ができなくなったら困る ふれあいバス(生活交通バス)が野村まで行ってほしい。 台風の後、土砂崩れなど道路状況が悪くなることもある。 人口減少による里道などの管理ができない 	<ul style="list-style-type: none"> 分館で草刈りや側溝の掃除 学校の奉仕作業 公園や神社、お寺の掃除 公民館に連絡してのけてもらう。(害獣の死骸) 	
<p>(空き家、土地・害獣)</p> <ul style="list-style-type: none"> 人家の近くに荒地や危険な空き家が多く、冬場の火災が心配 持家の空き家が古くなり自己での修理が困難になった。 イノシシなどの動物が農地を荒らし、人家の近くまで集まる イノシシが増えて被害に対応できない 	<ul style="list-style-type: none"> 個人で電柵や網を張るなどの対策をしている 害獣の目撃情報を共有している 	<ul style="list-style-type: none"> 使っていない畑貸します! イノシシやシカなどの捕獲(地元の猟友会) 各分館ごとに公園の草刈り
<p>(コロナ禍・イベント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 人と話す機会がなく、地域柄気軽に会えないので会話がな コロナ禍のために集まるイベントが減少。楽しみが減った。 昔ながらの行事ができない 	<ul style="list-style-type: none"> 土居家で「女子会」や「飲み会」をしたい 公民館事業のスマホ教室に参加 自治振主催イベントに参加 ※古里デーやお茶会など ボランティア協力する できる範囲で縮小して行っている 	<ul style="list-style-type: none"> 惣川でみんなで集まる会
<p>(買い物)</p> <ul style="list-style-type: none"> 買い物をする場所が少なく不便 新鮮な食材(肉・魚・卵など)が欲しいときに買えない。 車がない人の買い物が心配 	<ul style="list-style-type: none"> 移動販売や生協を利用する デイサービスの時に買い物を 食材は日頃から大目に購入して冷凍ばかり センターまでAコープの配達がある。 	

【担当者(ファシリテーター)のコメント】

惣川地区は少子高齢化が進み、地区によっては隣近所に住んでいる人はおらず、話したいし一緒に活動したいができないという方も多い。公民館や自治振が主催してイベントやサロンなどが、非常に楽しみで生きがいと話される方もいるという。しかし、害獣の対策や若い世代や子供が少ないなど、住民では対応しきれない課題があることも惣川地区の現状でもある。少ない人口や限られた資源の中でも、住民が楽しく安心して暮らせる地域にしようと、取り組まれていた。

※ 惣川地区は前回（令和元年度）の座談会を意見交換会方式で開催したため、前回からの達成度の評価はなし

※ 惣川地区は単独で座談会を開催し、3グループでグループワークを実施したため、他の地区より多くの意見が集まっている

（野村町）大野ヶ原地区

（地域で行っていること）

- ・地域づくり活動センターに向けた、地域任用職員の雇用。新しい輪が広がり、今までにはない取り組みができるのではと期待。
- ・県外の観光客だけでなく、去年は惣川のデイサービスが小旅行で来られていた。とても喜ばれた。

（今後地域で取り組みたいこと）

- ・運動会や学習発表会など、子供たちと一緒にやる事業は地域が一体となって盛り上げたい。コロナで繋がりを絶やさないようにしたい。
- ・集会所を利用した、料理会を検討中。

（地域の課題）

- ・親族などで介護が必要になったときの、どんなサービスがあるかどんな流れかを把握。
- ・お祭りなどのイベントが、コロナでできていない。子供だけでなく大人も一緒に楽しむことが大切だと思う。
- ・年数回でもお茶会・忘年会をしたいが、コロナの事もありやるべきか判断に迷う。
- ・市内や町内で起きた、事件や不審者情報が、大野ヶ原まで情報が伝わらない。特に高齢者は、スマホなどでの情報収集ができないので不安がある。

【担当者（ファシリテーター）のコメント】

大野ヶ原地区は、地域の繋がりが強い地域で、コロナによってイベントも自粛をせざるを得ない状況だが、子供たちが楽しめ大人も一緒に楽しめる地域にしたいという思いが、住民さんの意見から感じました。

また、子供たちとの繋がりもあり、この座談会の時に地元の小学生がハロウィンのイベントで会場に来られ、住民の人と関わる子供たちがとても楽しそうに遊ぶ姿をみて、住民間の繋がりを改めて感じました。

※ 大野ヶ原地区は意見交換会方式により開催

(城川町) 遊子川地区

地域の課題	地域で行ったこと	達成度	地域で出来ること
・災害時に孤立する可能性が高い	<ul style="list-style-type: none"> 無線の配置（今年手上げ方で） 2年に1回避難訓練（コロナでできていない） 消防団の活動 	3	・無線を使った避難訓練
・高齢者は通院が大変	<ul style="list-style-type: none"> デマンド等で補えない所は、タクシーを利用している デマンドタクシーを利用している。（促進もしている） 移動診療が来ている 定期通院には十分だが、救急時には… 	4	・デマンドタクシーの利用促進
・各種団体・役員のかげもちがあり負担が大きい	<ul style="list-style-type: none"> 組織の見直し（現在も行っている） コロナで集まっている回数が少なくなっている 	3	・組織の見直し
・共同作業の負担が大きい	<ul style="list-style-type: none"> 草刈りでなく除草剤を使っている 生活道路を守るため、草刈り（回数は変わっていない） 住民での活動にも限界がある 	3	・作業の割り振りの見直し

【担当者(ファシリテーター)のコメント】

遊子川地区の課題で「高齢者の通院が大変」については、車の免許を持ってない方や既に免許を返納された方が病院に行くために、デマンドタクシーを利用するか一般のタクシーで通わなくてはいけない。また移動診療所が週に1度来てはもらうが、救急の時はとても心配との声があった。

また、「災害時に孤立する可能性が高い」「各種団体・役員のかげもちがあり負担が大きい」の課題については、土地柄や高齢化の影響も大きく、その中でも地域が一体となり、この課題に一人ひとりが真剣に考えられていると私は感じました。

(城川町) 土居地区

地域の課題	地域で行ったこと	達成度	地域で出来ること
・災害時の高齢者の避難	・民生委員としての地域での声掛け ・集会所を避難所に（窪野地区） ・自主防災組織として、ハード面強化（発電機等）	3	・奥伊予荘を利用（雨の避難以外） ・独居高齢者の名簿の見直し
・買い物、通院が不便	・市外からの移動販売を利用 ・生協の利用の増加 ・委託店の無料配達利用（土居地区） ・地元商店の移動販売（窪野方面）	2	・ふるさと創生会のネット購入利用の支援（家電）
・高齢者の病気	・隣近所の見守り・声掛けの継続 ・民生委員による、日頃からの緊急時の対応の助言	3	・民生委員・区長の活動における声かけ・対面の重視 ・回覧板配布時の声掛け・安否確認 ・地域での情報共有
・独居高齢者の生活の不安	・独居高齢者の食事会（コロナ前）	3	・地域での情報共有
・高齢者のゴミ出し	・軽トラ等を使用している粗大ごみの回収	4	・粗大ごみ回収ボランティアの継続（1件 500円）

【担当者(ファシリテーター)のコメント】

日頃から住民同士のコミュニケーションが活発に行われ、顔の見える関係が築かれている地域で、「高齢者のゴミ出し」という課題に対して、軽トラ等を使用している粗大ごみの回収をしており、達成度も「4」と高い。「高齢者の病気」「独居高齢者の生活の不安」という課題に対しても、区長さん、民生委員さんを始めとした住民の皆さんが対面での声かけ・見守りを大切にしており、地域で出来ることとして上げられた、地域全体で情報を共有してくことでより不安が解消されるのではないかと思います。「買い物が不便という課題」も、ふるさと創生会のネット購入支援や高齢者の生協利用者が増加していることから、これが新たな支え合いの場になっていくのではないかと感じた。

(城川町) 高川地区

地域の課題	地域で行ったこと	達成度	地域で出来ること
<ul style="list-style-type: none"> 耕作放棄地が増えている 道路を含む草刈りが大変 	<ul style="list-style-type: none"> 木下牧場さんが耕作放棄地を活用して、飼料作付けをしている。(それでも耕作放棄地が増加。特に山際の不便な農地。) 高齢化で草刈り機を使える人が減っている。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 桃の木の成長に期待。 河津桜を道沿いで楽しむ 農機具等のシェア 高川の各家にも桃の木が植えてある
<ul style="list-style-type: none"> 役員になるといろいろな地域活動に参加することが多く大変 	<ul style="list-style-type: none"> コロナにより地域活動自体が減少。 婦人会会員が少なくなった。 一人が色々な役員をしていて大変。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 役の数を見直す 色々なお知らせを素早く的確に伝える。(住民の多くが参加のLINEグループを作る。災害の時にも有効。) 役になっても楽しく参加できる仕組みづくり。
<ul style="list-style-type: none"> クアテルメ宝泉坊が存続の危機 	<ul style="list-style-type: none"> (経営母体が) 民間企業に変わり存続している。 	4	<ul style="list-style-type: none"> クアテルメと地区が協働してイベントを行う。
<ul style="list-style-type: none"> 若者の地域での負担が増えている 	<ul style="list-style-type: none"> 消防団員の定員割れで災害時が不安になってきた。 青年団もなく、若い世代(消防団)メインでやる活動が多くなっている。 お試し住宅を活用して関係人口を増やしていく。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 移住者の地域おこし協力隊を増やして負担を減らす。 四国発で始めたフットパス(協会加入)をジオパークと絡めて西予市全体に広がることを願っている。
<ul style="list-style-type: none"> その他 	<ul style="list-style-type: none"> 売店が無くなり不便になった。(買い物ができない。地産地消ができない。) 愛大生を中心として行われているスイジ活動により、OB・OGの交流が続いている。 交流人口の増加。(穴神フットパスで関係人口の増加。) 	4	

【担当者(ファシリテーター)のコメント】

地域課題の多くが人口減少に伴う課題である。環境を活用した事業展開や、関係人口増加につながる事業を積極的に展開して、地域外の方に興味関心を抱いてもらえるような仕掛けをたくさんされている。また、桃の植樹などで新たな観光名所を創設したり、既存の地域資源を活用したりと活発に活動されている。地域の役員等の既存の体制から、現状に寄り添った体制へと転換することで、地域住民の負担削減と安心安全の両立に期待する。

(城川町) 魚成地区

地域の課題	地域で行ったこと	達成度	地域で出来ること
<ul style="list-style-type: none"> 地域活動の活性化について 	<ul style="list-style-type: none"> ササ見ネーション（夕涼み会） コスモまつり（バーベキュー）桜の森のイベント 三世代交流会 棚田キャンドルショー 	4	<ul style="list-style-type: none"> カフェおしゃべりできる場 子どもと交流できる場
<ul style="list-style-type: none"> 独居高齢者の増加 ⇒声かけ・見守りについて 	<ul style="list-style-type: none"> 弁当配布（独居） 新聞屋さん郵便局と連携し情報提供をお願い 魚成、田穂サロン 声かけ散歩（老人同士で） 婦人会で介護の研修 	3	<ul style="list-style-type: none"> おた助回転灯の設置事業（独居老人宅）地域住民の見守り
<ul style="list-style-type: none"> 病院がない ⇒健康づくりについて 	<ul style="list-style-type: none"> 体操を行っている（月2回） クローケー 卓球で高齢者見守り（週2回水・土）おしゃべり 	3	
<ul style="list-style-type: none"> 防災について 	<ul style="list-style-type: none"> 災害時要援護者支援 台風等の時、高齢者の見守りをする（避難所への声かけ等）民生委員のネットワーク、意識が高い 	3	
<ul style="list-style-type: none"> お店（食糧品）がない 	<ul style="list-style-type: none"> お店がないのでひがし君の移動販売を利用 家族がサポート 	3	<ul style="list-style-type: none"> 朝市→Yショップ隣でマルシェ 移動販売（依頼）

【担当者(ファシリテーター)のコメント】

「地域活動の活性化について」は、様々な取り組みが上げられ、参加者同士“コロナでも進んでいる”という思いを共有できた。課題についての達成度は現状維持という意味での「3」が多い。また「独居高齢者の増加」について、民生委員さんを中心とした平時の声かけや見守りが活発に行われている。それが台風等の時の避難誘導に活かされ、防災への取り組みにつながっているようである。地域で出来ることについて、「おしゃべりできるカフェ」や「朝市」などの意見が出て、実現すれば、より一層地域のつながりを感じられるような取り組みになるのではないかと、わくわくしている。

(三瓶町) 東地区

地域の課題	地域で行ったこと	達成度	地域で出来ること
<ul style="list-style-type: none"> • 空き家が多い 	<ul style="list-style-type: none"> • 空き家は撤去しているところもある • 家主が県外で家が老朽化して危険な状態 • 種まきハウスに改装中（公営塾の講師が中心） • 空き家バンクがある • 三瓶に住みたい人はいるが家具が置きっぱなし状態 	2	<ul style="list-style-type: none"> • 空き家マップを作成
<ul style="list-style-type: none"> • 銀天街がシャッター通りになっている 	<ul style="list-style-type: none"> • イベントの開催（マルシェ） • シャッターアート • 「花手水」のコンテスト • 昼市の開催 	4	<ul style="list-style-type: none"> • イベントの周知と開催の継続
<ul style="list-style-type: none"> • 行政からの情報がもらえない 	<ul style="list-style-type: none"> • 情報は自ら集める 	4	<ul style="list-style-type: none"> • 情報を自ら集める • 自主防災会が申請したら、要支援者の情報がもらえる
<ul style="list-style-type: none"> • 隣近所とのつきあいが少ない（十人組がない） 	<ul style="list-style-type: none"> • 民生委員や近所の人がかけている • 地域であいさつ • サロンの開催 	4	<ul style="list-style-type: none"> • 見守りを継続
<ul style="list-style-type: none"> • 8050世帯や、独居高齢者世帯が多い 	<ul style="list-style-type: none"> • 地域の人が見守りしている • 安心キットの配布 • 給食サービス（80歳以上の独居・高齢者世帯） 	4	<ul style="list-style-type: none"> • 見守りを継続

【担当者(ファシリテーター)のコメント】

「空き家が多い」との課題については、みんなで育てるコミュニティスペースとして「種まきハウス」を改装中。世代を越えた繋がりや学びの場など新たな仕組みづくりを構築することを目的としている。また、空き家マップを作成する事で、空き家の活用の取り組みが活発に行われると思われる。ご近所のつきあいや高齢者世帯等に対しては、地域でのあいさつ、声掛けや見守りを継続していく事で地域の繋がりを大切にされている。今後は商店街のシャッターアートや住民主体のイベントの開催等で地域を盛り上げていただきたい。

(三瓶町) 二木生地区

地域の課題	地域で行ったこと	達成度	地域で出来ること
<ul style="list-style-type: none"> 危機意識が低い(防災) 	<ul style="list-style-type: none"> 防災マップづくり完了 避難訓練(地区住民参加) 避難所運営についての研修 災害時要支援者共助票の作成 毎年、班員による確認 	4	<ul style="list-style-type: none"> 要支援者の避難訓練(方法) 避難夜間誘導灯の設置
<ul style="list-style-type: none"> 医療機関が遠く、交通手段が無い 	<ul style="list-style-type: none"> 自家用有償旅客運送(計画中) 個人がしている介護タクシー 	2	<ul style="list-style-type: none"> 自動運転バス 福祉有償運送の計画
<ul style="list-style-type: none"> 昔に比べて、住民のつながりがうすい(都会化) 	<ul style="list-style-type: none"> 伝統芸能の継承ができてにくい(コロナ) 地域内の敬老会が実施できていない(現在は中断してる) 	1	<ul style="list-style-type: none"> 伝統芸能の継承 人が集まる場の設定
<ul style="list-style-type: none"> 店が無い(高齢者が不便) 	<ul style="list-style-type: none"> 買い物支援宅配サービス(計画中) 移動販売(農協、生協、個人) 	2	<ul style="list-style-type: none"> 宅配サービス 買い物支援サービス 高齢者の買い物ツアー(病院ついでに) 生協の利用
<ul style="list-style-type: none"> 高齢者のゴミ出し 	<ul style="list-style-type: none"> 近隣の付き合いでの手伝い 	2	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者を見守る仕組みづくり
<ul style="list-style-type: none"> 地域課題、後継者不足 	<ul style="list-style-type: none"> 日だまりサロン(計画中) ウォーキングしている人が多い 何でも屋組織(人材バンクの活用) 		

【担当者(ファシリテーター)のコメント】

二木生地区では、以前「防災についての危機意識が低い」という課題が出ていたが、人と人の繋がりが強い地域性もあり、住民参加による避難訓練の実施や、防災マップの作製など様々な取り組みをされていると感じた。

また、近年はコロナの影響もあり住民の集まるイベントも自粛しているが、伝統芸能を絶やさないような活動や住民が気軽に集まることのできる場所もあればという前向きな意見も多かった。

(三瓶町) 周木地区

地域の課題	地域で行ったこと	達成度	地域で出来ること
<ul style="list-style-type: none"> ・店が無い 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドライブスーパーしゅう（月曜日） ・だんだん（火・金曜日） ・買い物代行 	2	<ul style="list-style-type: none"> ・移動販売車の増車・増便 ・買い物タクシー ・「リバーサイド」でカフェ
<ul style="list-style-type: none"> ・交通の便が少ない（交通弱者） 		3	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎車
<ul style="list-style-type: none"> ・防災意識が低い 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災備品の整備 ・安心キットを準備（独居高齢者） 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練 ・災害食の試食
<ul style="list-style-type: none"> ・健康管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・体操教室の実施（毎週火曜日） ・血圧・体温チェック ・いきいきおしゃべりクッキング 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・体操教室を土曜日にして欲しい（仕事をしているので参加できない。） ・新しい料理教室グループを作りたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・世代間交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生と交流 ・竹あかり ・PPバンドかご作り ・SNS 発信（インスタ・LINE・YouTube） ・ビリ通（ビリ島通信）（月1） 		<ul style="list-style-type: none"> ・関係者人口の増加 ・お餅つき ・マリンスポーツ体験 ・海水浴場復活 ・ドローン会場 ・小学校跡地の利用 ・空家の利用 ・釣り大会 ・LINE で釣り情報を流す ・ポルタリング（ゆったり走る気楽なサイクリング。目的地は様々で、景色の良い海沿いを走る、とか）

【担当者(ファシリテーター)のコメント】

少子高齢化が顕著ではあるが、地域づくり組織の活動が活発に行われ、体操教室や料理教室等の高齢者の集いの場及び生きがいづくりの場が積極的に開催されている。ビリ島をはじめとする地域資源を活用して、若年層にも地域の魅力を発信しており、関係人口の増加につながっている。また、『リバーサイド』でカラオケが出来るようになるなど、座談会で出てきたアイデアが実現しており、今後も地域づくり組織を中心とした地域の発展に期待したい。

(三瓶町) 蔵小校地区

地域の課題	地域で行ったこと	達成度	地域で出来ること
<ul style="list-style-type: none"> ・防災、減災について 	<ul style="list-style-type: none"> ・備蓄食料水の量の点検、増量 ・防災倉庫の整備、毎年実施 ・入替え備蓄品の配布 ・要援護者名簿の作成 ・砂防ダム三楽園裏完成間近（手すりの設置も） ・安心キットの普及 ・市主催大規模防災訓練 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・安心キット声かけの継続 ・南海トラフ地震による津波からの避難場所の確保（三楽園あと地） ・地区、消防他、要支援者の把握（できていないのではないだろうか）
<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動の担い手について 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の情報を発信 通信・SNS ・分館巡回…茶菓子を囲んで地域の情報を聞く ・サロン ・手上げ型の資金を利用グループが地域活動を実施 ・老人会 清掃活動など ・ゴミ袋販売 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代との交流 ・日常的に飲食できるコミュニティの場 ・クリーン運動（役員のみで地域の方とコミュニケーションがとれていない）
<ul style="list-style-type: none"> ・専門医への受診が困難 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康づくり ウォーキングしている人多数（⇒コスモス整備 景観◎） ・分館巡回時にみんなで体操 	2	<ul style="list-style-type: none"> ・救命講習会 ・タクシー券や、自営の運転する人があればいい
<ul style="list-style-type: none"> ・買い物が不便 	<ul style="list-style-type: none"> ・だんだん、周ちゃんの利用 ・移動販売の品物が少なくなる。下泊→有太刀（たまには反対にしてほしい） 	2	<ul style="list-style-type: none"> ・品物の充実 依頼できたら… ・生協 ・ネット ・買い物補助や代行
<ul style="list-style-type: none"> ・活動資金の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・手上げ型交付金利用団体が活発に活動している（5団体→メダカ・太陽会・運動会・まるごとくうかい・イルミネーション） ・花火大会資金 全額地元から 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・不用品バザーの開催

(その他意見・課題) ・害獣駆除→南公民館 アナグマ、シカ、イノシシの捕獲で減った
・観光、みかん、米づくり、ブクブク田、魚釣りなどの情報発信

【担当者(ファシリテーター)のコメント】

「専門医への受診が困難」「買い物が不便」の交通等に関する課題については、今ある地域の資源を活用した取り組みの継続ということで、達成度は「2」となっている。「活動資金の確保」「地域活動の担い手について」の課題では、資金を活用し活発に地域活動が行われており、その情報発信にも取り組まれている。加えて、サロンや分館巡回での交流の場、体操なども進められており、地域の方々の声を反映し、住民のみなさんが心身ともに元気になる活動を展開されていると感じた。

(三瓶町) 下泊地区

地域の課題	地域で行ったこと	達成度	地域で出来ること
<ul style="list-style-type: none"> ・買い物が不便 	<ul style="list-style-type: none"> ・移動販売週 2 回 20 人程集まる ・生協利用 ・近隣たのむ 	2	<ul style="list-style-type: none"> ・移動販売で不足のものは頼み合い ・移動販売の場所を集いの場に（生協の場も） ・返納者の半額チケットの活用
<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動の担い手不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・女性に期待（盆踊り、敬老会、消毒液） 	2	<ul style="list-style-type: none"> ・空家活用 ・ゲストハウス
<ul style="list-style-type: none"> ・消防団員がいない 		3	<ul style="list-style-type: none"> ・OB 機能別の活用
<ul style="list-style-type: none"> ・農家が減少し農道の管理が困難 ※ 所有者不在又は管理不能 	道づくり、除草剤、中山間集落協定	3	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの活動を継続していく
<ul style="list-style-type: none"> ・急傾斜が多く宅地の裏山管理が大変 ※ 所有者不在又は管理不能 		2	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの活動を継続していく

72

【担当者(ファシリテーター)のコメント】

三瓶町の南端に位置し交通アクセスが悪く、前回は農協の閉鎖による買い物難民を危惧する意見が多かったが、現状として移動販売（週2回）や生協の活用、近所同士の助け合いによって生活を維持されている。

参加された方の話として、今後は、地域づくり活動センターにはセンター長と地域任用職員を配置して行政手続きは、従来通り三瓶支所にて行うという話でした。

徐々に人口が減少で地域の担い手が不足するなか、地域住民が納得できる手法を模索しており、地域で出来ることの一つに、移動販売が来た時に20人程が集まっているところに着目してそこを「集いの場として生かせないか」などの案が出ていた。

今後の取組みに期待したい。

住民座談会に参加しての中間評価委員の意見・感想

明浜地区

- ・令和元年の座談会では俵津地区も多くの出席者がいたが、今回の座談会では3名しかいなかった。もう少し参加者の人数について、配慮をしていただきたい。
- ・生活研究グループの方が地域で頑張っておられたおかげで、明浜地区の良い所や魅力を感じた若者が、地域の活性化のお手伝いに来てくれている。しかし、受け入れる場所がある地域と、そうでない地域があるのが少し残念に思う。

宇和地区

- ・座談会に参加された人から「このような座談会はとても大切である。」との意見を聞いた。時間が限られており、足りないなと感じた。職員の人に来ていただいて、もう少し小さい地区の単位で話し合える場があればと思った。
次年度から地域づくり活動センターが設置されるが、地域任用職員やまちづくり組織、民生委員さんなどが地域に出向いて行って、住民のニーズや悩みなどを聞き、自分たちでできることを考えたり、必要に応じて専門機関に繋ぐことなどが必要なのではないかなと思う。どうしても高齢者の意見が多くなりがちだとは思うが、子供や若い世代、女性などの意見をもっと引き出すことが出来ればと思う。
- ・住民座談会で話し合った意見や課題について、参加されていない住民の皆さんにどこまで伝わっているのかと感じている。また、地域福祉活動計画の中間評価で私たちが協議した内容について、住民の皆さんと共有することができればいいのではないかなと思う。

野村地区

- ・若い世代が都会に出ていく現状や、農業後継者がおらず耕作放棄地が多いといった課題がある。横林地区の活動報告には感動した。

惣川地区

- ・惣川は人口が300人しかいない地区で、若い人が少ない。高齢者が通院をしたくても交通の便が悪い状況や、また若い世代が地元に戻って来たくても仕事がないなど、様々な地域の課題がある。住民が健康で暮らし、若い世代も惣川に住んでもらえることを願っている。
- ・高齢者の見守り、移動手段、買い物、医療の問題や害獣駆除についての意見が出ていた。

地域でできることは限られていて、コロナで地域組織の弱い部分があぶり出された。コロナが収まっても再開できず、そのまま止めてしまう活動も多いのではないかと危惧している。

城川地区

- 地域の課題を自由に話せ、いい意見交換ができたと思う。しかし、この座談会での意見や課題に対して、地域でどのように取り組んでいくかまでは話し合えていない。
「地域活動の活性化」の課題については、地域づくり活動センターで取り組みそうな内容もあった。センターに足を運んでいただき、手を取り合いながら前に進めればなど考えている。
- 座談会で多くの課題が上がったが、どのように解決していくかを考えると、若い人が少なく、ボランティアのリーダーとなる人も少ない。ボランティアさんやそのリーダーが活動しやすいようなサポートが必要だと思う。また、地域が一丸となって課題に取り組む体制づくりも必要だと思う。
次年度から地域づくり活動センターと地域づくり組織が、地域の課題を解決するため活動していくには資金が必要になる。小さな地域に対して、資金を含めたサポートが必要だと感じている。
- コロナ前は施設に地域の方を招き、利用者さんとの交流や一緒に行事を行うなどしていたが、ここ3年は全くできていない。地域の方の様々な意見を聞く事のでき、地域の中の施設としてどのように活動していくか考える良い機会だった。高齢者の施設であるため、地域への開放はまだ難しい状況である。

三瓶地区

- 三瓶町の北・南地区は高齢化が進み、若い世代が少ない。そのため地区に昔から根付いている文化や行事もできにくくなっている現状がある。
また、高齢者が買い物や通院に行くにもバスがなく、とても困っている。

資料

1 西予市地域福祉活動計画中間評価委員会設置要綱

(目的)

第1条 この委員会は、社会福祉法人西予市社会福祉協議会（以下「本会」という。）が、社会福祉法（昭和26年法律第45号）第109条に規定されている地域福祉を推進するため、西予市地域福祉活動計画（以下「活動計画」という。）の中間評価を行うことを目的とする。

(名称)

第2条 この委員会は、西予市地域福祉活動計画中間評価委員会（以下「委員会」という。）と称する。

(任務)

第3条 委員会の任務は次のとおりとする。

- (1) 活動計画の中間評価に必要な実態やニーズの把握、問題・課題の整理及び分析
- (2) 活動計画の中間評価
- (3) その他、活動計画の中間評価に必要な事項の協議

(構成)

第4条 委員会は、16名以内の委員をもって構成する。

2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから本会会長が委嘱する。

- (1) 住民の代表者
- (2) 民生児童委員協議会の代表者
- (3) 高齢者の代表者
- (4) 障がい者の代表者
- (5) ボランティア団体の代表者
- (6) 社会福祉施設関係者
- (7) 行政関係者
- (8) その他本会会長が必要と認める者

3 委員会に、活動計画の中間評価に関して必要な助言を行う地域福祉推進アドバイザー（以下「アドバイザー」という。）を置くことができる。

(委員会)

第5条 委員会に委員長1名及び副委員長1名を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選による。

3 委員長は、委員会の会務を統括する。

4 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代理する。

(会議)

第6条 会議は委員長が招集し、会議の議長となる。

2 会議は委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

(意見の聴取)

第7条 委員会は、必要に応じ委員以外の者に会議への出席を求め、その意見若しくは説明を聴き、場合によっては、資料の提供を求めることができる。

(任期)

第8条 委員の任期は、活動計画の中間評価が終了する日までとする。

(費用弁償等)

第9条 本会会長は、予算の範囲内において、委員会に出席する委員及びアドバイザーに対し、費用弁償または報償を支払うことができる。ただし、行政関係者については支払わない。

(庶務)

第10条 委員会の庶務は、本会地域福祉課で行う。

(委任)

第11条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定めるものとする。

附 則

(施行期日)

この要綱は、令和4年9月1日から施行する。

(この要綱の執行)

この要綱は、令和5年3月31日限り、その効力を失う。

2

西予市地域福祉活動計画中間評価委員会 委員名簿

選出区分	氏名	所属（選任時所属）	策定委員会 の役職
住民の代表者	宇都宮 一郎	明浜地区住民代表	
	兵頭 豊司	宇和地区住民代表	
	大塚 晶司	野村地区住民代表	委員長
	井上 健	城川地区住民代表	
	三好 幸二	三瓶地区住民代表	
民生児童委員協議会 の代表者	酒井 正人	明浜地区民生児童委員協議会	
	岩本 きよみ	宇和地区民生児童委員協議会	副委員長
	井上 朱美	野村地区民生児童委員協議会	
	田中 正男	城川地区民生児童委員協議会	
	池本 廣美	三瓶地区民生児童委員協議会	
高齢者の代表者	三瀬 光一	西予市老人クラブ連合会	
障がい者の代表者	増田 道夫	西予市身体障害者協会	
ボランティア団体の 代表者	大塚 英子	西予市ボランティア連絡協議会	
社会福祉施設関係者	福田 豊	西予市老人福祉施設協議会	
行政関係者	大内 俊二	西予市福祉事務所 （福祉課 地域福祉計画担当者）	
	佐々木靖子	西予市長寿介護課 （生活支援体制整備事業担当者）	

(令和4年9月時点)

※ 所属については、選出時の所属

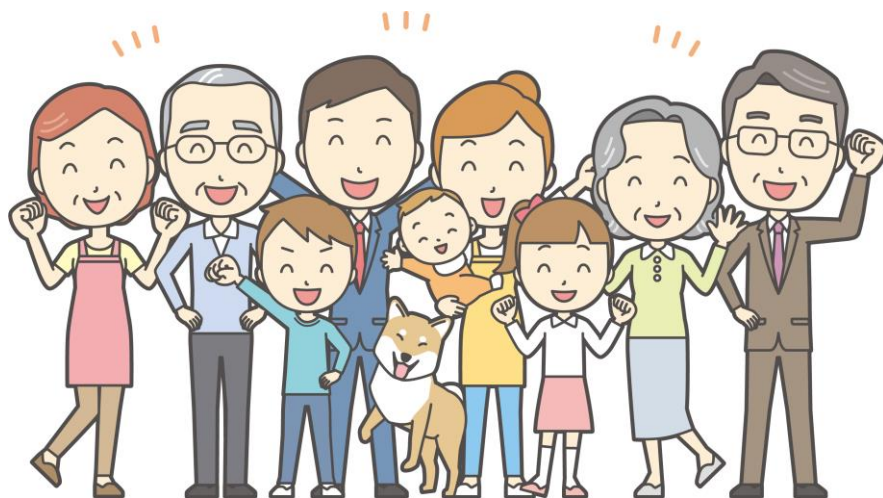
※ 敬称略

3

アドバイザー

所属・役職	氏名
公立大学法人新見公立大学 健康科学部 地域福祉学科 教授	高杉 公人

※ 敬称略



第1期西予市地域福祉活動計画 中間評価

(令和4年度)

発行 社会福祉法人 西予市社会福祉協議会

〒797-1212

愛媛県西予市野村町野村 12号 15番地

電話 0894-72-2306 ・ FAX 0894-72-0024